



# イスラエル巡礼の旅

2013年11月12日～20日

ヨーロッパ・カトリック聖地巡礼センター



## 巡礼者の祈り

神よ、  
巡礼に出かけている私たちを  
あなたの祝福で  
満たしてください。

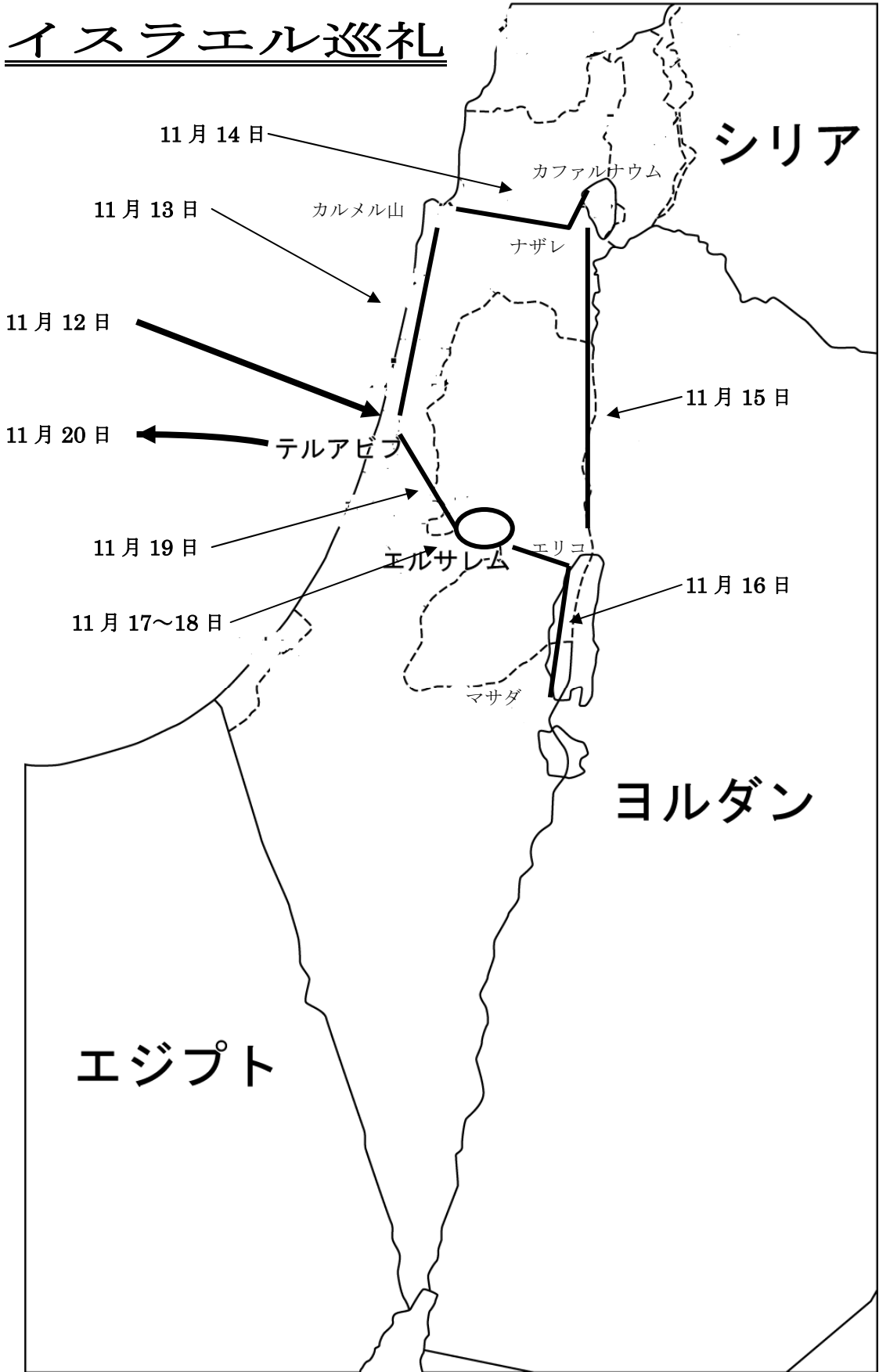
あなたの顔の輝きは  
旅人の喜びとなりますように  
いつも私たちと共にいてください。

神よ、  
あなたは旧約時代のトビアに  
旅のために天使をお遣わしになったように、  
私たちにも天使を遣わして  
困難、道の迷いなどの事故から  
お守りください。

私たちの主、イエス・キリストによって。  
アーメン。



# イスラエル巡礼



# イスラエル巡礼の旅

2013年11月12日(火)～20日(水)

## 目次

---

イスラエル国.....	5
古代イスラエル.....	5
テル・アヴィブ・ヤッフオ.....	10
* イスラエルの国章.....	12
11月13日(水).....	13
カイザリア.....	13
メギド.....	15
カルメル山.....	17
バハーイー教の本拠.....	18
カルメル会.....	19
* イスラエルの国旗.....	20
11月14日(木).....	21
カナ.....	21
ナザレ.....	22
タブハ.....	24
山上の垂訓.....	27
カファルナウム.....	28
11月15日(金).....	31
ヨルダン川.....	31
イエスの洗礼.....	31
エリコ.....	32
死海.....	35
11月16日(土).....	37
マサダ.....	37
クムラン.....	38
* イスラエル国花.....	40

11月17日(日).....	41
オリーブ山.....	41
昇天教会.....	41
主の涙の教会.....	42
ゲッセマネの園.....	42
万国民の教会.....	42
主の祈りの教会.....	43
嘆きの壁.....	43
鶏鳴教会.....	44
最後の晩餐.....	45
* ユダヤ教の五大際.....	46
11月18日(月).....	47
ヴィア・ドロローサ.....	47
聖墳墓教会.....	51
ベテスダの池.....	53
ベツレヘム.....	54
11月19日(火).....	57
エン・カレム.....	57
エマオ.....	60
典礼聖歌.....	63
朝の祈り.....	72
ユスト高山右近の列福を求める祈り.....	73

# イスラエル国



## イスラエル国

独立：	1948年5月14日
面積：	22,072 km <sup>2</sup>
人口：	8,002,300 (2013年)
	75% ユダヤ人、 21% アラブ人、4% その他)
公用語：	ヘブライ語、アラビア語
首都：	エルサレム (イスラエルの主張) テルアビブ (国際連合の主張)

古来、イスラエル (昔のカナン) は、東のチグリス川とユーフラテス川 (現在のイラク) の文明、そして、西のナイル川の文明 (現在のエジプト) の間の通路のような土地でした。多くの古代と現代のアルファベットの起源だったこの土地で、セム語のアルファベットは生まれた。また、アブラハムの宗教の起源だったその一神教がここに生まれた。アブラハムの宗教とは、聖書の預言者アブラハムの宗教的伝統を受け継ぐと称するユダヤ教、キリスト教、イスラム教の三宗教のことである。そして、また、7000年以上前に、(たとえば、エリコ市) 世界で初めての都市が生まれ、世界で最初の港 (ヤッファ市) も作られた。

## 古代イスラエル

### \* カナン時代

古代イスラエルは伝説的な太祖アブラハムの時代からユダヤ戦争終結までのイスラエル古代史を概説する。古代イスラエルの歴史に関する資料は旧約聖書による部分が多いが、研究や発掘などによって史実としての裏づけが取れている部分もある。

イスラエル人たちが始祖とするアブラハムは、旧約聖書によればバビロニアのウルからカナンの地へ移住してきたことになっている。旧来、この記述は紀元前 2000 年頃に古バビロニアのハム

ラビ王がウルを滅ぼした後の紀元前 1800 年頃の出来事と解釈され、旧約聖書を文化基盤の一つとしてきた欧米では未だに根強い説だが、おそらくは自民族の古さと血筋の良さを誇るために作られた故事来歴の類である。

旧約聖書の「創世記」には、アブラハムの子のイサク、イサクの子ヤコブが後の古代イスラエル人の祖先であるとしている（ヤコブの別名がイスラエル）。しかし、この 3 代の族長は、元々は別の部族が保持していた族長伝説が合わせられたと考えられている。アブラハムとイサクの記述には圧倒的に南部ユダ地方に置かれた聖所との関わりが記されているし、ヤコブの記述にはサマリア地方やヨルダン川東岸の聖所が言及されていることから、アブラハムとイサクが南部のユダヤ系、ヤコブが北部やヨルダン川東岸系の部族の族長であったことが推測されるのである。イスラエル部族連合がその結びつきを強固にして、祭祀・伝承・神話を共有していく中で三代の族長の物語が形成されていったのだろうと考えられる。

旧約聖書の中でも大事件として扱われるのが、モーセのエジプト脱走である。それによれば、ヤコブの子のヨセフの時代にイスラエル人はエジプトに移住し、エジプト王の厚遇を得て栄えたが、王朝が代わって迫害が始まり、紀元前 1250 年ごろイスラエル人たちはモーセに率いられてエジプトを脱走し、40 年間荒野を放浪して約束の地であるカナンに辿りついたというものである。この放浪中のシナイ山でイスラエル人たちは神と契約を結んで十戒を授かるなど、ユダヤ教の中でも極めて重要なエピソードであり、仮庵の祭りなどの形で現代のユダヤ教にも継承されている伝承である。

**\* 紀元前 11 世紀頃 - この地に古代イスラエル王国が誕生。**

サムエル記によると、紀元前 1080 年ごろペリシテ人が北部のガリラヤを制圧し、その地域のイスラエル人が奴隷となると、最後の士師であったサムエルは、サウルをはじめのイスラエルの王として任じた。この王はペリシテ人との戦いの必要からでた軍事的な指導者であった。

サウル王の死後、サムエルに見出されたダビデは南部のユダ族をまとめて王となり、都ヘブロンを中心とした王国を建てる。これに対して北部イスラエルの 11 部族はサ





ウルの後、その子イシュバルを王とし、都マハナムを中心にして王国を建てた(サムエル下 2:9-11)。これら二つの王国の内紛は 7 年以上続くが、イシュバルの後、両国はダビデを王として認めることで和解した。

紀元前 995 年頃、ダビデは両王国の中心に位置するエルサレムのエブス人を倒し、以後、ここを拠点にペリシテ人らを退け、イスラエル王国(統一王国)を築いた。

ダビデの後、紀元前 963 年にその子の一人ソロモンが国王を継ぐ。ソロモンは引き続き国の体制を整え諸外国との交易を盛んにし、またエルサレムに大きな神殿を建てた。

**\* 紀元前 922 年 - 内乱のため南北に分裂。**

ソロモンの後、部族間の抗争により統一体制は崩れ、やがて 10 部族がイスラエル王国(北王国)として独立し、南のエルサレムを中心とするユダ王国(南王国)と分離することになる。以後両国には戦争が絶えず、その事によって国力が衰えた。

**\* 紀元前 721 年 - 北のイスラエル王国はアッシリアに滅ぼされる。**

北王国の首都サマリアは紀元前 721 年にはアッシリアによって陥落した。アッシリアのサルゴン 2 世はサマリアのイスラエル人指導層などを奴隷として連れ去り、または追放して、その土地にメソポタミアなどからの異民族を移住させた。ここにイスラエル王国は滅亡する。

**\* 紀元前 586 年 - 南のユダ王国は新バビロニアに滅ぼされる。**

前 597 年、新バビロニアのネブカドネザルがエルサレムに侵攻し、ヨヤキン王を含めた 1 万ほどのイスラエル人をバビロンに連れ去り捕虜とした。そして、紀元前 586 年にはネブカドネザルによってエルサレム城壁が崩され神殿は破壊された。ここにユダ王国は滅亡。このときもバビロンに多くが捕虜とされて連れて行かれた。

**\* 紀元前 538 年 - ペルシア王国が新バビロニアを滅ぼし、バビロニアの虜囚イスラエル人はキュロス大王によって解放される。**

バビロニアでの生活を捨ててエルサレムに帰還したユダヤ人は 2~3 割と言われている。それ以外の多くは自由意志でバビロニアに残留した。ペルシア王ダレイオス 1 世治下の紀元前 515 年、ゼルバベルの指導でエルサレム神殿が再建された。紀元前 458 年にエズラの指導のもとで二度目の集団帰還が行われた。

- \* 紀元前 334 年～紀元前 332 年・マケドニア王国のアレクサンドロス 3 世による東方征服でパレスチナの地が征服される。その後、マケドニアは分裂し、プトレマイオス朝、そしてセレウコス朝（シリア王国）の支配下に入る。

この時代、紀元前 3 世紀の中ごろ、エジプトのアレクサンドリアにおいて聖書がギリシャ語に翻訳された。これを「七十人訳聖書」という。

- \* 紀元前 143 年・セレウコス朝の影響を脱しユダヤ人がこの地の支配を確立する（マカバイ戦争）。

紀元前 167 年になると祭司マタティアとその息子たち（マカバイ家）をリーダーとする反乱が勃発した。マタティアがなくなると息子のユダ・マカバイをリーダーとして戦闘が継続され、紀元前 164 年にエルサレム神殿を奪回した。ユダの死後は兄弟のヨナタンが指揮をとった。

この一連の戦いをマカバイ戦争といい、この戦争のユダヤ人側の観点による記録が「マカバイ記」である。ヨナタンとその兄弟シモンは諸勢力との合従連衡をたくみに繰り返し、紀元前 143 年にはセレウコス朝の影響を脱してマカバイ家による支配を確立させた。ここに実に数百年ぶりにユダヤ人による独立国家が回復した。

この時期にユダヤ教敬虔主義からエッセネ派、ファリサイ派、サドカイ派が起り、特にエルサレム神殿祭司層を中心としたサドカイ派と在家で民間基盤のファリサイ派の対立が激しくなる。

- \* その後、ローマ帝国の属州となる。

紀元前 63 年にはローマのポンペイウスが中東へ遠征してきてセレウコス朝を滅ぼした。当時のハスモン朝はヨハネ・ヒルカノス 2 世とアリストブロス 2 世の争いが続いていた。両勢力はローマへの接近を図るが、ローマは無能なヒルカノス 2 世のほうが傀儡にふさわしいと考え、支援したため、アリストブロス 2 世は死に追い込まれた。



- \* 66 年・ローマ帝国の属州であったユダヤの地でユダヤ戦争(第 1 次ユダヤ戦争)が勃発。

66 年、ついにユダヤ人の不満が爆発し、ここに独立を目指してユダヤ戦争(第 1 次ユダヤ戦争)が勃発。しかし 70 年にはローマ軍が半年にわたってエルサレムを包囲し兵糧攻めにしてついに陥落、神殿も破られた。

**\* 132年 - ユダヤ人バル・コクバに率いられたバル・コクバの乱 (第2次ユダヤ戦争) が起きた。**

バル・コクバはユダヤの独立を達成し、キリスト教徒を除く全ユダヤ人からメシアであると承認された。彼はエルサレムで二年半の間イスラエルの大公として統治した。彼の公国は135年にローマ帝国によって征服された。

大きな反乱が続発し、ユダヤ人の統治の困難さに手を焼いたローマ人はユダヤ地方からユダヤ色を一掃しようと考え、ユダヤ人が忌み嫌っていたペリシテ人の名前をとり、この地方をパレスチナと名づけた。ユダヤ人たちはこれ以前にもすでに広くローマ帝国内や各地に離散していたが、ここに再び多くのユダヤ人が離散を余儀なくされ、長いディアスポラの時代が始まった。ローマによるエルサレム神殿破壊の結果、神殿祭儀中心の古代ユダヤ教は終焉し、以後ユダヤ教の学問の中心はガリラヤ地方に移り、ファリサイ派の伝統を下地に、今日の現代ユダヤ教にまで発展するユダヤ教の原型ができた。



### パレスチナへの移民

ヨーロッパにおけるユダヤ人の迫害の結果として、パレスチナへの最初のユダヤ人の移住は1881年に始まった。1904年から1914年の間で約4万のユダヤ人がパレスチナに移住した。第一次世界大戦後、パレスチナへの移民は1929年まで続いた。1933年のナチズムはパレスチナへの新しい移民をもたらした。パレスチナのユダヤ人は60万に達した。80年代の半ばには、ロシアからの新しい移民も開始されます。約100万のユダヤ人はロシアを離れることを決めて、パレスチナへ移住しました。

### ● 1948年5月14日 - イスラエル国として再び独立宣言。



イスラエルのユダヤ人人口は約70万人。1948年5月14日、テル・アヴィヴにおいてイスラエル国家樹立が宣言された。この国家樹立宣言が第一次中東戦争に発展した。イスラエル建国初期は首都機能をテル・アヴィヴにおいていたが、1949年にイスラエルは西エルサレムを占領してエルサレムを首都として首都機能をエルサレムに移転。しかし、イスラエルのエルサレム首都宣言は国際的には承認されておらず、国際連合（国連）などではテル・アヴィヴを代替りの首都とみなしている。

## テル・アヴィブ・ヤッフオ



テル・アヴィブは、イスラエルにある市。

イスラエルの経済・文化の中心地かつ中東有数の世界都市。

ハ・メディナ広場周辺の地域は、白亜建造物が並ぶ計画都市で、白い都市として世界遺産に登録されている。

テル・アヴィブの地名は、旧約聖書のエゼキエル書 3:15 に登場し、捕囚のイスラエル人が共同居住地として住まわされた新バビロニア帝国の町の名に由来する。テルとはヘブライ語で「遺跡・廃墟」の意。またアヴィブとはヘブライ語で「穀物の耳」(＝穀物の穂)の意で、転じて春のこと。ちなみに、現在の地名についている「ヤッフオ」は、聖書時代のこの地の地名「ヤッフア(ヨッパ)」を受け継いでおり、ヘブライ語で「美しい」という意味がある。

20世紀初頭までは、古代都市ヤッフアに隣接する海沿いの砂丘にすぎなかったが、住みよい国を建国することに対するユダヤ人の情熱が、ここを開拓して大都会に仕立て上げたといわれており、まさにシオニズムの希望の地となった。結果として、アラビア人の町であるヤッフオを、新たに築いたテル・アヴィブが飲み込んだ形となったので、1950年に合併して一つの町となった。(正式名称がテル・アヴィブ・ヤッフオなのはそのためである)。

### テル・アヴィブの“白い都市“(ヘブライ語で Ha-Ir HaLevana)

近代主義建築の象徴的な一例となった大邸宅。テル・アビブで柱の上に立てられた最初の住宅でもある。

テル・アビブの「白い都市」は、1920年代から1950年代にかけて白色や明るい色の建造物群が建てられたテル・アビブの街区の名称である。それらの建造物はバウハウス様式あるいはインターナショナル・スタイルが採用されている。

テル・アビブの中心地区では、いまだにそうした様式の建物を4000軒以上も見ることができ、

これは一都市内に集中しているものとしては世界でも類を見ないものである。このことから、この「白い都市」は 20 世紀前半の建築や都市計画を考える上で逸することの出来ない優れた例証として、2003 年にユネスコの世界遺産に登録された。同時にそれは、この町が育んできた伝統や文化、あるいは取り巻く気候的要件といったものに、建築様式をどう馴化させるかというユニークな例証にもなっている。

## 歴史的背景

テル・アビブが建設されたのは、イスラエルの地がまだオスマン帝国領だった 1909 年のことである。19 世紀を通じて大挙して来たユダヤ人の移民たちは、ヤッフオの古い港町に溢れかえっていた。その結果、ユダヤ人たちはヤッフオの北の砂丘地帯に聖書の時代以来となるユダヤ人都市を建て始めたのである。

テル・アビブの発展は第一次世界大戦中には停滞したが、東ヨーロッパ、ソビエト連邦、イエメンからの移民が増大していった。ドイツでナチスが権力を掌握した 1933 年以降、テル・アビブにも夥しい数のユダヤ人難民が流入した。そうした難民の中には建設業者や職人、さらには建築家などが含まれており、ことに建築家たちの多くは 1933 年にナチスの命令で閉校に追いやられたバウハウスで研鑽を積み、その影響を受けていた。

審美的、機能主義的、経済的な側面を併せ持った建築様式を推進していたバウハウスが閉校に追い込まれたことによって、そこで学んだ有能な建築家たちが失業してあぶれていたという状況があった。その一方で、流入する移民たちによってテル・アビブでの住居需要は急増しており、確立された建築様式を持たない白紙のキャンパスのような存在であったこの町では、数百軒単位で新しい建物が必要とされていた。こうした状況の組み合わせがまたとない好機を創出する形になった。こうしてバウハウス様式は、テル・アビブのデザイナーたちに、過去に頼ることなく新しい環境を創出できる建築的アプローチを提供したのである。





## イスラエルの国章

イスラエルの国章は、  
メノーラーと呼ばれる古代から使われてきた七枝の燭台を中心に置き、  
まわりにオリーブの枝を配した形になっている。

メノーラーの様式はモリアという名で知られる野の草に由来するといわれ、  
オリーブの枝はユダヤ民族の平和への願いを象徴している

聖書におけるメノーラーの起源（出エジプト記 25:31-32）

「純金で燭台を作りなさい。燭台は打ち出し作りとし、  
台座と支柱、萼と節と花卉は一体でなければならない。  
六本の支柱が左右に出るように作り、一方に三本、他方に三本付ける」。

11月13日(水)

## カイザリア



カイザリアは紀元前1世紀に作られた古代都市の名前。その名は当時のローマの権力者アウグストゥス・カエザルの名にちなんでいる。カイザリアとよばれた都市はいくつかあった。

1. 「海辺のカイザリア」と呼ばれたパレスティナの港湾都市。本項で詳述。
2. 「フィリポ・カイザリア」と呼ばれたダマスカス近くの都市。現在のバーニヤース（シリア南西部のゴラン高原の都市）。
3. 「カイザリア・マザカ」と呼ばれたカッパドキアの都市。現在のカイセリ（トルコ中央部の都市）。
4. 「カイザリア・ヨル」と呼ばれたマウレタニア・カイザリエンススの首都。現在のシャルシャル（アルジェリア北西部の地中海沿岸の都市）。

### 海辺のカイザリア

海辺のカイザリアはカイザリア・パレスティナとも呼ばれた都市で、ヘロデ大王が紀元前25年ごろからパレスティナのテルアビブの近くに建設した。

もともと存在した「ストラトンの塔」という小要塞をもとに大增築し、都市とそれに付随する人工港湾まで建築した。紀元前13年には市民が入植し、パレスティナではもともと良港が少なかったため、カイザリアは重宝され、ユダヤ人やギリシャ人など多民族の混住地となった。ローマ帝国もカイザリアの海上交通の利便さに目をつけてここをユダヤ属州の首都とし、ローマ総督と軍隊の駐屯地とした。

フラウィオ・ヨセフは著作『ユダヤ古代誌』および『ユダヤ戦記』で、カイザリアでユダヤ人虐殺が起きたことがユダヤ戦争の引き金となったと述べている。ローマ時代のカイザリアにはコロシムやカエザルにささげられた神殿などがあったことが発掘によってわかっている。皇帝ヴェスパシアヌスはこの街を "Colonia Prima Flavia Augusta Caesarea" と名づけている。

新しい都市に水を供給するために、約9キロの長さを持つ2つの水路を建設しました。これらの水路は、カルメルの山から水を運んだ。



カイザリアは栄え、新約聖書の『使徒言行録』にも登場する。

- 10章 25節： 最初の異邦人キリスト教徒はこのカイザリアで誕生したのである。
- 18章 22節： 使徒パウロの第二回伝道旅行
- 21章 8節： 使徒パウロの第三回伝道旅行
- 23章 33節： 58年にパウロはカイザリアへ連れて来られた。

130年代のバル・コクバの乱をローマ軍が鎮圧しエルサレムを破壊すると、カイザリアはパレスティナ第一の都市となり、初期のキリスト教の中心もエルサレムからカイザリアへ移った。



カイザリアは7世紀以降、ペルシア帝国やイスラム教徒の侵攻によって破壊されたが、なんとか存続し、12世紀の十字軍の時代には十字軍によって植民都市とされている。その後もイスラム教徒とキリスト教徒の攻防の地となったが、やがて放棄されて廃墟となった。



## メギド

メギド はイスラエルにある丘であり、神学的、歴史的、地勢的な理由により知られている。古代においてメギドは有力な都市国家であり、この地をイエス率いる光の勢力とサタンや反キリスト的集団による闇の勢力が最終決戦を行うハルマゲドンの地であると、聖書から解釈している者もいる。(黙示録 16,16.)



メギドは古代世界において重要な場所であり、エジプトとアッシリア（メソポタミア）の交易ルートを支配していた。こういった主要なルートの交点に位置することにより、メギドやその周辺地域は歴史を通して様々な大きな戦闘を経験している。この地には紀元前 7000 年から紀元前 500 年まで居住者がいた。

聖書には海の道（Derekh Ha Yam）の名で登場し、ローマ帝国時代には重要な戦略路として位置づけられ、ヴィア・マリス(Via Maris) として知られるようになった。

メギドは、旧約聖書では約 18 回言及されている：

### 列王記上 9:15

“ソロモン王が主の神殿、王宮、ミロ、エルサレムの城壁、ハツオル、メギド、ゲゼルを築くために課した労役についての事情はこうであった。”

### 列王記下 23:29-30

“彼の治世に、エジプトの王ファラオ・ネコが、アッシリアの王に向かってユーフラテス川を目指して上って来た。ヨシヤ王はこれを迎え撃とうとして出て行ったが、ネコは彼に出会うと、メギドで彼を殺した。ヨシヤの家臣たちは戦死した王を戦車に乗せ、メギドからエルサレムに運び、彼の墓に葬った。国の民はヨシヤの子ヨアハズを選んで、油を注ぎ、父の代わりに王とした。”

現在のメギドは古代メギドから少し離れたところにある。近接するメギド山 (Har-Megiddo) はハル・マゲドンの語源となっている。「Har Magedon」は "メギドの山"、あるいは "軍の集まりの山"を意味します。

2005年には、メギドの遺跡が世界遺産に宣言された。

その付近では、3つの有名な戦いがありました：

- \* メギドの戦い (紀元前 1478 年)： エジプトの王トトメス 3 世がこの地において戦争を行ったことにより、古代エジプト人によってこの地を言及する記録が存在する。エジプトにあるトトメス 3 世の神殿にはヒエログリフで詳細に、この戦争について描かれている。
- \* メギドの戦い (紀元前 609 年)：エジプトとユダ王国の間で戦った。ユダの王ヨシヤが負けました。
- \* メギドの戦い (1918 年)： 第一次世界大戦中に連合軍とオスマン帝国軍の間で戦った。



## カルメル山

カルメル山の高さは、約 550 メートルであり、その名前は、「庭」（アラビア語で "Karmel"）または「神のぶどう畑」（ヘブライ語で "Karem El"）を意味します。カルメル山に位置して洞窟は 2012 年に世界遺産に宣言された。



カルメル山は旧約聖書の『列王記上』で預言者エリヤがバアルの預言者たちと対決し、勝利したことで知られる山である。

### 列王記上 18 : 20-40

“アハブはイスラエルのすべての人々に使いを送り、預言者たちをカルメル山に集めた。エリヤはすべての民に近づいて言った。「あなたたちは、いつまでどっちつかずに迷っているのか。もし主が神であるなら、主に従え。もしバアルが神であるなら、バアルに従え。」民はひと言も答えなかった。

エリヤは更に民に向かって言った。「わたしはただ一人、主の預言者として残った。バアルの預言者は四百五十人もいる。我々に二頭の雄牛を用意してもらいたい。彼らに一頭の雄牛を選ばせて、裂いて薪の上に載せ、火をつけずにおかせなさい。わたしも一頭の雄牛を同じようにして、薪の上に載せ、火をつけずにおく。そこであなたたちはあなたたちの神の名を呼び、わたしは主の御名を呼ぶことにしよう。火をもって答える神こそ神であるはずだ。」民は皆、「それがいい」と答えた。

エリヤはバアルの預言者たちに言った。「あなたたちは大勢だから、まずあなたたちが一頭の雄牛を選んで準備し、あなたたちの神の名を呼びなさい。火をつけてはならない。」彼らは与えられた雄牛を取って準備し、朝から真昼までバアルの名を呼び、「バアルよ、我々に答えてください」と祈った。しかし、声もなく答える者もなかった。彼らは築いた祭壇の周りを跳び回った。

真昼ごろ、エリヤは彼らを嘲って言った。「大声で呼ぶがいい。バアルは神なのだから。神は不満なのか、それとも人目を避けているのか、旅にでも出ているのか。恐らく眠っていて、起こしてもらわなければならないのだろう。」彼らは大声を張り上げ、彼らのならわしに従って剣や槍で体を傷つけ、血を流すまでに至った。真昼を過ぎても、彼らは狂ったように叫び続け、献げ物をささげる時刻になった。しかし、声もなく答える者もなく、何の兆候もなかった。

エリヤはすべての民に向かって、「わたしの近くに来なさい」と言った。すべての民が彼の近くに

来ると、彼は壊された主の祭壇を修復した。エリヤは、主がかつて、「あなたの名はイスラエルである」と告げられたヤコブの子孫の部族の数に従って、十二の石を取り、その石を用いて主の御名のために祭壇を築き、祭壇の周りに種 2 セアを入れることのできるほどの溝を掘った。次に薪を並べ、雄牛を切り裂き、それを薪の上に載せ、「四つの瓶に水を満たして、いけにえと薪の上にその水を注げ」と命じた。彼が「もう一度」と言うと、彼らはもう一度そうした。彼が更に「三度目を」と言うと、彼らは三度同じようにした。水は祭壇の周りに流れ出し、溝にも満ちた。

献げ物をささげる時刻に、預言者エリヤは近くに来て言った。「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ、あなたがイスラエルにおいて神であられること、またわたしがあなたの僕であって、これらすべてのことをあなたの御言葉によって行ったことが、今日明らかになりますように。わたしに答えてください。主よ、わたしに答えてください。そうすればこの民は、主よ、あなたが神であり、彼らの心を元に返したのは、あなたであることを知るでしょう。」すると、主の火が降って、焼き尽くす献げ物と薪、石、塵を焼き、溝にあった水をもなめ尽くした。



これを見たすべての民はひれ伏し、「主こそ神です。主こそ神です」と言った。エリヤは、「バアルの預言者どもを捕らえよ。一人も逃がしてはならない」と民に命じた。民が彼らを捕らえると、エリヤは彼らをキシオン川に連れて行って殺した。“

## バハーイー教の本拠

ほぼ同じ頃にバハーイー教の本拠もここに移り、現在では聖地として「万国正義院」やバハイの寺院、インターナショナルティーチングセンターがあります。



19 世紀のイランで発祥したイスラム教系新宗教バハーイー教の聖地群であり、同宗教の前身にあたるバブ教の開祖バブの廟や、彼の後を継いでバハーイー教を説いたバハーウッラーの廟など 26 の建造物が、教団の本部があるハイファとバハーウッラーが過ごしたアッコ周辺に点在している。バハーイー教徒にとって重要な巡礼地である。敷地内には教団本部があるほか、庭園や記念碑が配されている。2008 年に、UNESCO の世界遺産に登録された。

## カルメル会

(ラテン語：Ordo fratrum Beatæ Virginis Mariæ de monte Carmelo、略称 O.C.)。男子カルメル会と女子カルメル会、および第三会と呼ばれる在俗者会がある。

カルメル会は、12 世紀にベルトルドという修道者がパレスティナ（現在イスラエル）のカルメル山の” Wadi-es-Siah” 谷に修道院を築いて暮らしたことが起源とされる。会の名称はその地名からとられている。ベルトルドはもともとカラブリア（イタリア）の出身であったが、巡礼者あるいは十字軍戦士としてパレスティナに赴き、発願して修道者となったといわれている。

ベルトルドの修道院に修道士が集まって生活を始めると、会則が出来、1226 年に教皇ホノリウス 3 世に認可されたことで正式な修道会として成立した。13 世紀に東方と西方の乖離が進んだため、カルメル会士たちは発祥地のカルメル山を離れてシチリアとキプロスに修道院をつくった。やがて会員の増加と共に、イギリスなどヨーロッパ中にカルメル会の修道院を立てていった。1259 年にはルイ 12 世の援助によってパリにカルメル会修道院が設置されている。

13-14 世紀の間、女子カルメル会も創立されました。しかし、修道院生活としては 1450 年ごろからです。

15 世紀、1434 年ごろ、カルメル会の新会則が出来ました。それが教皇エウジェニウス 4 世に認可されましたが、多くの修道士が反対だった。数年後、刷新運動が勃興し、原点回帰が叫ばれるようになった。その動きの中で特に大きな役割を果たしたのは 16 世紀の女子修道会におけるアビラの聖テレジアであり、男子修道会における十字架の聖ヨハネである。彼らの思想に共鳴し、後に続いたカルメル会士たちは跣足(せんそく)カルメル会と呼ばれるようになる。



## イスラエルの国旗

イスラエルの国旗は 1891 年にデザインされ、  
1897 年の第 1 回シオニスト会議でシオニスト運動の旗として採択。  
第二次世界大戦中のユダヤ義勇軍の軍旗として使用され、  
1948 年 10 月 28 日に国旗として正式に制定された。  
「六芒星旗」とも言われる。

中央の六芒星はダビデの星。  
上下の帯はユダヤ教の男性が礼拝の際に用いるタリットと呼ばれる肩掛けの帯を表している。  
タリットにはツイーツィートという房をつけ、  
その中にテヘーレトという青い紐を入れる。  
この青は高貴な色として使われていた。

ダビデの星は、  
ユダヤ教、あるいはユダヤ民族を象徴するしるし。  
二つの正三角形を逆に重ねた六芒星（ヘキサグラム）といわれる形をしています。



11月14日(木)

## カナ

カナはイエスが初めて奇跡を行なった場所として歴史に名を残しています。カナはナザレから北に向かって6キロぐらい離れています。

最初のカナの結婚の教会は6世紀にシナゴグの廃墟の上に建てられました。そして、この教会の廃墟の上に現在の教会が19世紀に建築されました。この教会の地下室でイエスが水をワインに変える最初の奇跡を行なった場所の遺跡を見ることができます。



### カナの婚礼 (ヨハネ 2,1-12)

三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があつて、イエスの母がそこにいた。イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた。ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言った。

そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあつた。いずれも二ないし三メートル入りのものである。イエスが、「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。イエスは、「さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われた。召し使いたちは運んで行った。世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていたが、世話



役は知らなかったので、花婿を呼んで、言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったころに劣ったものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」

イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行つて、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。この後、イエスは母、兄弟、弟子たちとカファルナウムに下つて行き、そこに幾日か滞在された。

## ナザレ

ナザレは、イスラエルの北部地区の中心地である。

キリスト教徒にとっては、イエス・キリストが幼少期から公生活に入るまでを過ごした土地であり、彼自身が「ナザレ人」と呼ばれたと新約聖書にあることから、きわめて重要な場所とされる。

637年、イスラム教徒によるパレスチナ地区の征服が始まり、この地区にイスラム教がもたらされました。その後の400年間で、イスラム教徒の住人の割合が増加するが、アラブ・キリスト教徒も少数派として残っています。第1回十字軍により、その後の長い争いが始まり、地元のサラセン人とヨーロッパ人による支配が幾度となく交代しました。ガリラヤとナザレの支配も、その支配者が信仰する宗教徒を増やししながら、頻繁に入れ代わりしました。



1099年、十字軍のタンクレードがガリラヤを占領し、ナザレを首都に決めました。1187年、サラディンがヒッティーンの戦いに勝利し、街は再びイスラムの支配下となり、残った十字軍やヨーロッパ人の司牧者は、強制的に街から追い出されました。

1263年、マムルーク朝スルタンのバイバルスが、パレスチナの地から、キリスト教徒の残党を追い払い、ナザレにあったキリスト教徒

の建築物を破壊し、キリスト教の司牧者が町に立ち入ることも禁止しました。ナザレにいたキリスト教徒はこの地で生き続けていたが、住民規模は縮小しました。1294年にここを訪れたキリスト教巡礼者は、岩屋を守る小さな教会しかなかったと報告している。

14世紀、フランシスコ会の修道士の帰還と、聖堂跡地への居住が認められたが、1584年に彼らは再び立ち退くことになった。1620年、オスマン・シリア (Ottoman Syria) の一部を支配していた Fakhr-al-Din II 世が、修道士の帰還と、受胎告知の岩屋に小さな教会を建設することを許可し、この神聖な場所周辺への巡礼ツアーが、以前町に住んでいたフランシスコ会によって組織されました。しかし修道士たちは、周囲に住むベドウィンに苦しめられていました。Daher el-Omar の治世に平和が戻り、1730年にフランシスコ会の教会建築を承認しました。



この教会は1877年に増築されましたが、1955年には現在の教会を建てるために取り壊しました。1964年、ローマ教皇パウロ6世はこの新しいバシリカを聖別されました。

### イエスの誕生が予告される (ルカ 1,26-38)

六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。

天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」



マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。神にできないことは何一つない。」

マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

## タブハ

タブハ（七つの泉という意味）という場所はガリラヤ湖の北岸にあります。そこに、パンと魚の奇跡教会とペトロ首位権教会があります。



パンと魚の奇跡教会には、祭壇の下に乗算石と呼ばれる大きな石があります。最初の礼拝堂は、イスラム教徒の占領の間に破壊されましたが、1930年に発掘調査が行われたので、場所の再構築ができました。その時、その場所でパンと魚のモザイクが発見されました。このモザイクは、アレクサンドリア（エジプト）で製造されたものです。

### 五つのパンと二匹の魚を増やす（マタイ 14,14-21）

イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て深く憐れみ、その中の病人をいやされた。夕暮れになったので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。「ここは人里離れた所で、もう時間もたちました。群衆を解散させてください。そうすれば、自分で村へ食べ物を買いに行くでしょう。」

イエスは言われた。「行かせることはない。あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい。」弟子たちは言った。「ここにはパン五つと魚二匹しかありません。」イエスは、「それをここに持って来なさい」と言い、群衆には草の上に座するようにお命じになった。

そして、五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちにお渡しになった。弟子たちはそのパンを群衆に与えた。すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二の籠いっぱいになった。食べた人は、女と子供を別にして、男が五千人ほどであった。



## ペトロ首位権教会



パンと魚の奇跡教会から湖に向かって、約500メートル離れて、ペトロ首位権教会があります。9世紀には、この場所はヨハネ福音書21章9節「陸に上がってみると、炭火がおこしてあった。その上に魚がのせてあり、パンもあった」に関して「石炭燃焼」の名前で知られていた。

最初の教会は1187年にイスラム教徒によって破壊されました。1260年に再建されましたが、3年後、再度破壊されました。そして、1933年にはフランシスコ会により古いチャペルの廃墟の上に現在教会が建てられました。

### メンザ・クリスティ // ペトロ首位権 (ヨハネ 21,1-18)

イエスはティベリアス湖畔で、また弟子たちに御自身を現された。その次第はこうである。シモン・ペトロ、ディディモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼバダイの子たち、それに、ほかの二人の弟子が一緒にいた。シモン・ペトロが、「わたしは漁に行く」と言うと、彼らは、「わたしたちも一緒に行こう」と言った。彼らは出て行って、舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。既に夜が明けたころ、イエスが岸に立っておられた。だが、弟子たちは、それがイエスだとは分からなかった。

イエスが、「子たちよ、何か食べる物があるか」と言われると、彼らは、「ありません」と答えた。イエスは言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ。」そこで、網を打ってみると、魚があまり多くて、もはや網を引き上げることができなかった。イエスの愛しておられたあの弟子がペトロに、「主だ」と言った。シモン・ペトロは「主だ」と聞くと、裸同然だったので、上着をまとい湖に飛び込んだ。ほかの弟子たちは魚のかかった網を引いて、舟で戻って来た。陸から二百ペキスばかりしか離れていなかったのである。



さて、陸に上がってみると、炭火がおこしてあった。その上に魚がのせてあり、パンもあった。イエスが、「今とった魚を何匹か持って来なさい」と言われた。シモン・ペトロが舟に乗り込んで網を陸に引き上げると、百五十三匹もの大きな魚でいっぱいであった。それほど多くとれたのに、網は破れていなかった。

イエスは、「さあ、来て、朝の食事をしなさい」と言われた。弟子たちはだれも、「あなたはどなたですか」と問いただそうとはしなかった。主であることを知っていたからである。イエスは来て、パンを取って弟子たちに与えられた。魚も同じようにされた。イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに現れたのは、これでもう三度目である。

食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたのご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。



二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたのご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。

三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロは、イエスが三度目も、「わたしを愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「わたしの羊を飼いなさい。はっきり言うておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」

## 山上の垂訓

山上の垂訓（エレモス山とも呼ばれる）はガリラヤ湖の北西岸（カファルナウムとゲネサレトの間）にあります。山上の説教の場所は不明ですが、現在の場所で 1600 年前からこの事実を記念しています。

現在の場所の近くに、4 世紀に教会が建てられて、7 世紀まで使用されました。現在の礼拝堂は、1938 年に建てられました。

### 山上の説教（マタイ 5,1-15）

イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。

「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。

柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。

義に飢え渴く人々は、幸いである、その人たちは満たされる。

憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。

心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。



あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。

あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。」

## カファルナウム



カファルナウムは新約聖書に登場する、ガリラヤ湖の北西岸にある町のことである。

地名は「Kfar Nahum」、「ナウムの村=ナホム預言の村」を意味する。

イエス・キリストの公生活の宣教の内もっとも重要なガリラヤ伝道の本拠地になった。聖書では、旧約聖書には登場せず、福音書にのみ登場する。

ローマ軍の駐屯地として栄え、収税所があった。イエスは自分の町であったとも述べている。

イエスはここで、中風にかかった百人隊長のしもべや、熱病で寝ていたペトロのしゅうとめ、汚れた霊につかれた人、4人の男に運ばれてきた中風の男、などを癒した。また、カファルナウムの役人の息子の病を癒した。五千人にパンを与えた後の「いのちのパン」の説教はカファルナウム会堂でなされたと言われる。また、マタイ福音書を記した、徴税人マタイの召命もカファルナウムで行われた。そして、ペトロとその兄弟アンドレの町であった。

イエスのこれらの活動にもかかわらず、カファルナウムの人たちは悔い改めなかったため、この町は「陰府に落とされる」と滅びることを預言した。

## 百人隊長の僕をいやす (マタイ 8:5-13)

イエスがカファルナウムに入られると、一人の百人隊長が近づいて来て懇願し、「主よ、わたしの僕が中風で家に寝込んで、ひどく苦しんでいます」と言った。そこでイエスは、「わたしが行って、いやしてあげよう」と言われた。

すると、百人隊長は答えた。「主よ、わたしはあなたを自分の屋根の下にお迎えできるような者ではありません。ただ、ひと言おっしゃってください。そうすれば、わたしの僕はいやされます。わたしも権威の下にある者ですが、わたしの下には兵隊がおり、一人に『行け』と言えば行きますし、他の一人に『来い』と言えば来ます。また、部下に『これをしろ』と言えば、そのとおりにします。」

イエスはこれを聞いて感心し、従っていた人々に言われた。「はっきり言うておく。イスラエルの中でさえ、わたしはこれほどの信仰を見たことがない。言うておくが、いつか、東や西から大勢の人が来て、天の国でアブラハム、イサク、ヤコブと共に宴会の席に着く。だが、御国の子らは、外の暗闇に追い出される。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。」

そして、百人隊長に言われた。「帰りなさい。あなたが信じたとおりになるように。」ちょうどそのとき、僕の病気はいやされた。

## 考古学

19世紀より西洋人の探検家らによる発掘が進み、ガリラヤ湖の北側のテル・フームでかなりの広範囲にカファルナウムの廃墟が発見された(1838)。そして、1894年にフランシスコ会がその土地の大部分を買うことができました。



最も重要な発掘調査は1905年に始まり、1926年まで続いた。これらの発掘調査によると、カファルナウム市は、紀元前2世紀に設立され、11世紀には放棄され、無人の町となった。

1968年に、いわゆる「ペトロの家」は発見されました。「ペトロの家」の上に、5世紀後半に、八角形の教会は建てられました。そして、1981年に、3世紀に建てられた白シナゴグの下に、1世紀のシナゴグの遺跡を発見しました。

その 5 世紀の八角形の教会とカファルナウムの白いシナゴグは 7 世紀の初め、キリスト信者とユダヤ人の間に争いがあったため、破壊されたと考えられる。

746 年の地震でカファルナウムは大きな被害を受け、少し離れた場所に再建されました。



「イエスは会堂を立ち去り、シモンの家にお入りになった。シモンのしゅうとめが高い熱に苦しんでいたのので、人々は彼女のことをイエスに頼んだ。イエスが枕もとに立って熱を叱りつけられると、熱は去り、彼女はすぐに起き上がって一同をもてなした

。

日が暮れると、いろいろな病気で苦しむ者を抱えている人が皆、病人たちをイエスのもとに連れて来た。イエスはその一人一人に手を置いていやされた。悪霊もわめき立て、「お前は神の子だ」と言いながら、多くの人々から出て行った。イエスは悪霊を戒めて、ものを言うことをお許しにならなかった。悪霊は、イエスをメシアだと知っていたからである。」

(ルカ 4:38-41)



11月15日(金)

## ヨルダン川

ヨルダン川は「下降する川」を意味する。

ヘルモン山（標高 2,814 メートル）などの連なるアンチレバノン山脈やゴラン高原（シリア高原）などに端を発し、途中ガリラヤ湖となって北から南へと流れ、ヤルムーク川・ヤボク川・アルノン川などの支流をあわせて死海へと注ぐ延長 425 キロメートルの河川である。主としてヨルダンとイスラエル・パレスチナ自治区との国境になっている。また、乾燥地帯における貴重な水資源となっている。

### イエスの洗礼

『新約聖書』によれば、洗礼者ヨハネがイエス・キリストに洗礼を授けたのがヨルダン川であったといわれています。ヨハネは、この川のほとりの「荒野」で「悔い改め」を人びとに迫って洗礼活動を行なっていました。イエスは自らの受洗の後ヨハネの創始した洗礼活動に参加するが、やがてヨハネの教団から独立してガリラヤへの宣教に赴かれた。

ヨハネ福音書（1：28）によれば、洗礼者ヨハネが洗礼を授けたのもイエスがヨハネから洗礼を受けたのも「ヨルダン川の向こう側、ベタニア」（川の東岸・現在ヨルダン国）となっていますが、長いキリスト教の伝統の中で、イエスの洗礼の場として川の西岸（現在パレスチナ）とされてきました。しかし、川の東岸には、考古学的な宝物も多く、イエスの洗礼の真の場所もその一つであると現在は考えられています。



### イエス、洗礼を受ける（マタイ 3:13-17）

そのとき、イエスが、ガリラヤからヨルダン川のヨハネのところへ来られた。彼から洗礼を受けるためである。ところが、ヨハネは、それを思いとどませようとして言った。「わたしこそ、あ

なたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。」

しかし、イエスはお答えになった。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにした。

イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。

## エリコ

エリコは、死海の北西部にあるパレスチナの市。古代オリエントの中でも古い町で、紀元前 8000 年には周囲を壁で囲った集落が出現した。世界最古の町と評されることもある。世界で最も標高の低い町でもある。海拔マイナス 250m の低地にある。「スルタンの泉」と呼ばれるオアシスがあり、人々が住み着いた。エリコ



の名前は『旧約聖書』にも繰り返し現れ、「シュロの町」として知られていた。

### 沿革

エリコには、異なる時代に形成されたいくつかの町があり、古代～『旧約聖書』時代のテル・エッ・スルタン (Tell es-Sultan)、紀元前後のトゥルール・アブー・エル・アラーイク (Tulul Abu el-'Alayiq)、現在の町があるテル・ハリに分かれる。

1868 年からヨーロッパの考古学者によって何度か調査が行われ、1952 年にイギリスのキャスリーン・ケニヨン (Kathleen Kenyon) らが行った調査では紀元前 8000 年のものと思われる周囲を濠と石積みの防壁で囲った集落跡が発掘された。

初期の痕跡はテル・エッ・スルタンにあり、紀元前約 1 万年前～9000 年前まで遡る。いろいろの時代を経て、紀元前 5850 年頃に放棄され、しばらく無人の町となった。

紀元前 3300 年頃には周壁を備えた都市が形成される。紀元前 2300 年頃に異民族の来襲によるものと思われる火災にあい、しばらく空白期間となる。



紀元前 1900 年頃に再び町が建設され、町の領域は初期の壁の外にも拡大し、さらに外側により高い周壁が建設された。紀元前 1560 年頃にヒクソスの侵入にあい、大火災に見舞われて廃墟となった。紀元前 1550 年頃～1150 年頃には、古代エジプトの圧迫を受けた。

『旧約聖書』では、前 1200 年頃、預言者ヨシュアが人々に命じて一斉に吹かせたラッパの音により、エリコの城壁が崩れ落ちたと伝えられている。

#### エリコの占領 (ヨシュア記 6:14-16; 20-21)

彼らは二日目も、町を一度回って宿営に戻った。同じことを、彼らは六日間繰り返したが、七日目は朝早く、夜明けとともに起き、同じようにして町を七度回った。町を七度回ったのはこの日だけであった。

七度目に、祭司が角笛を吹き鳴らすと、ヨシュアは民に命じた。「鬨の声をあげよ。主はあなたたちにこの町を与えられた。。。。」

角笛が鳴り渡ると、民は鬨の声をあげた。民が角笛の音を聞いて、一斉に鬨の声をあげると、城壁が崩れ落ち、民はそれぞれ、その場から町に突入し、この町を占領した。



ヘレニズム時代から『新約聖書』の時代になると、トゥルール・アブー・エル・アラーイクに町が形成された。福音書にも何回も登場する。

### エリコの近くで盲人をいやす (ルカ 18:35-43)

イエスがエリコに近づかれたとき、ある盲人が道端に座って物乞いをしていた。群衆が通って行くのを耳にして、「これは、いったい何事ですか」と尋ねた。「ナザレのイエスのお通りだ」と知らせると、彼は、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫んだ。先に行く人々が叱りつけて黙らせようとしたが、ますます、「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。

イエスは立ち止まって、盲人をそばに連れて来るように命じられた。彼が近づくと、イエスはお尋ねになった。「何をしてほしいのか。」盲人は、「主よ、目が見えるようになりたいのです」と言った。そこで、イエスは言われた。「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った。」盲人はたちまち見えるようになり、神をほめたたえながら、イエスに従った。これを見た民衆は、こぞって神を賛美した。

### 徴税人ザアカイ (ルカ 9:1-10)

イエスはエリコに入り、町を通っておられた。そこにザアカイという人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見る事ができなかった。それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。



イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。これを見た人たちは皆つぶやいた。「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった。」しかし、ザアカイは立ち上がって、主に言った。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」

イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

## 死海

ヘブライ語では「塩の海」と呼ばれ、聖書には「アラバの海」、「東の海」などと記される。

死海は、アラビア半島北西部に位置する塩湖。西側にイスラエル、東側をヨルダンに接する。湖面の海拔はマイナス423m と地表で最も低い場所である。そして、湖面の海拔は、毎年、約1メートル低くなります。

死海	
面積.....	637 km <sup>2</sup>
最大水深.....	415 m
水面の標高.....	-423 m

死海は、東アフリカを分断する大地溝帯が紅海からアカバ湾を通過してトルコに延びる断層のほぼ北端に位置している。死海を含むヨルダン渓谷は、白亜紀以前にはまだ海であったと推定されている。その後の海底隆起により、パレスチナ付近の高原が形成されると同時に、ヨルダン渓谷付近に断層が生じたと考えられている。



死海の水源は唯一ヨルダン川である。年間降水量は50mmから100mmと極端に少なく、気温は夏が32~39°、冬でも20~23°と非常に高いため、湖水の蒸発が水分供給を上回る状態で、高い塩分濃度が生まれた。

海水の塩分濃度が約3%であるのに対し、死海の湖水は約30%の濃度を有する。1リットルあたりの塩分量は230gから270gで、湖底では428gである。この濃い塩分濃度のため、湖水の比重が大きくなり、結果、浮力も大きいので、人が死海に入ると沈むことは極めて困難である。また、生物の生息には不向きな環境であるため、湧水の発生する1か所を除き、魚類の生息は確認されていない。死海という名称の由来もここにある。

る1か所を除き、魚類の生息は確認されていない。死海という名称の由来もここにある。

## 伝説

旧約聖書のソドムとゴモラは神が硫黄の火で燃やしたと伝えられるが、一方での廃墟は死海南部の湖底に沈んだとも信じられている。これは、「シディムの谷」と「アスファルト」に関する創世記の描写と、死海南部の状況が似通っていることなどから、一般にもそう信じられているが、その一方で、死海南岸付近に点在する遺跡と結びつけようとする研究者も存在する。特に、死海東南部に存在する前期青銅器時代の都市遺跡 Bab edh-Dhra をソドム、Numeira をゴモラとする説が有力である。



11月16日(土)

## マサダ

マサダとは、イスラエル東部、死海西岸近くにある古代ローマユダヤ属州時代の要塞の遺跡である。「マサダ」とはヘブライ語で「要塞」を意味します。この要塞は海拔下約 400 メートルの死海のほとりにあり、死海から標高約 450 メートルの岩山にあります。



ユダヤ戦争におけるユダヤ人の集団自決（73年）で知られ、2001年に世界文化遺産に登録された。

マサダはイスラエル国内でエルサレムに次ぐ人気の観光地となっており、観光用のロープウェイが整備されている。その歴史的経緯から現在でもなお多くのユダヤ人にとって特別な思い出のある場所であり、ユダヤ人全滅の悲劇を再び繰り返してはならないという決意から、イスラエル国防軍の入隊式がマサダ頂上で行われ、国家への忠誠を誓う。

### 歴史

紀元前 120 年頃に要塞が建設され、後にヘロデ大王が離宮兼要塞として改修し、難攻不落と言われた。

66年にローマ帝国との戦争が始まり（ユダヤ戦争）、70年のティトゥス率いるローマ軍によってエルサレムが陥落した（エルサレム攻囲戦）後、熱心党员を中心としたユダヤ人 967 人がエルアザル・ベン・ヤイルに率いられてマサダに立てこもり、ローマ軍 15000 人がこれを包囲した。ユダヤ人たちは 2 年近く抵抗したが、73年についてローマ軍によって攻め落とされた。陥落直前にユダヤ人たちは、投降してローマの奴隷となるよりは死を選び、2人の女と5人の子供を残して全員が集団自決したという。これによってユダヤ戦争は完全に終結した。

73年のローマ軍による破壊後は長い間その所在が分からなくなっていたが、1838年にドイツ人研究者によって発見された。

## クムラン

クムランとは死海北西端の沿岸から約 1 km にある遺跡で、ユダ王朝時代（紀元前 7～6 世紀）に要塞が築かれた「塩の町」（ヨシュア記 15：62）と同定されています。この遺跡が有名になったのは、1947 年に近くの洞穴から紀元前に書かれた完全な「イザヤ書」巻物写本がベドウィンの少年によって発見され、その後次々に同種の古代写本が周辺の洞穴群から発見されたからです。1951-56 年には、古い要塞の跡からこれら古代写本の所有者と思われる共同体の大きな建物の全構造が明らかにされました。それは「死海写本」または「クムラン写本」と呼ばれています。

クムランの共同体は修道院的性格をもった祭司集団で、紀元前 130 年ころ「義の教師」なる人物によってエルサレムの神殿祭儀に反対して創設されたと言われます。

彼らは独自の律法解釈にもとづく厳格な規律に従って禁欲的共有財産制の共同生活を営み、その中心思想は世界も人間も生と死、光と闇、善の霊と悪の霊とい



った二つの力や霊によって支配されているとする二元論的終末観によって特徴づけられています。この共同体は紀元後 70 年の第 1 次ユダヤ戦争のとき、ローマ軍によって破壊されて消滅しました。

### 死海写本

死海写本（英語: Dead Sea Scrolls）は 1947 年から 1956 年にかけて死海の北西にある遺跡キルベト・クムラン（Khirbet Qumran）周辺で発見された 972 の写本群の総称。「二十世紀最大の考古学的発見」ともいわれる。なお、広義に死海写本という場合、クムランだけでなく 20 世紀後半の調査によってマサダやエン・ゲディ近くのナハル・ヘベルの洞窟から見つかった写本断片なども含むので、写本数には幅が生じる。

死海写本はヘブライ語聖書の最古のテキストを含んでいて、宗教的にも歴史的にも大きな意味を持ち、第二神殿時代後期のユダヤ教の実情をうかがわせるものでもある。写本は大部分がヘブラ



イ語で書かれており、二割ほどのアラム語写本と、ごくわずかなギリシア語写本を含んでいる。多くは羊皮紙であるが、一部パピルスもある。写本の成立は内容および書体の分析と放射性炭素年代測定、質量分析法などから紀元前 150 年ごろから紀元 70 年の間と考えられている。

死海写本の内容は大きく分けて三つに分類することができる。第一は「ヘブライ語聖書（旧約聖書）正典本文」、第二は「旧約聖書外典」と「偽典」とよばれるユダヤ教の聖書正典としては受け入れられなかったもの、第三に「宗団写本」と呼ばれるクムラン教団の規則や儀式書ものである。





## イスラエルの国花

### シクラメン

シクラメンはサクラソウ科シクラメン属に属する多年草。  
地中海地方原産で、花期は秋から春。冬の花として有名。

シクラメンは元々地中海沿岸、トルコからイスラエルにかけて原種が自生している。名前は受粉後に花茎が螺旋状に変化する性質からギリシア語のキクロス(kiklos：螺旋・円)から命名された。古来は花ではなく、塊茎の澱粉を注目され、サポニン配糖体シクラミン (Cyclamin) を含む有毒にもかかわらず「アルプスのスマレ」などの美称があり、食用とされていた。大航海時代以後ジャガイモがもたらされると、シクラメンを食用にする習慣はなくなった。

シクラメンに関する伝説で、  
草花好きだったソロモン王が王冠に何か花のデザインを取り入れようと  
思い様々な花と交渉するが断られ、  
唯一承諾してくれたシクラメンに感謝すると、  
シクラメンはそれまで上を向いていたのを、  
恥ずかしさと嬉しさのあまりにうつむいてしまった、  
と言うものがある。

11月17日(日)

## オリーブ山

オリーブ山はエルサレム市の東にあるキドロンの谷に位置しています。この山はイエス・キリストが度々行かれた場所だった。

イエスが最後のエルサレム滞在中に夜を過ごし（ルカによる福音書 21:37）、弟子たちに説教を行った場所（マタイによる福音書 24:3 など）とされ、またルカ福音書（22:39）では捕えられる前に最後の祈りを捧げた場所とされています。

オリーブ山は多くの重要な聖書の出来事の場所です。聖地の最も神聖な場所の一つと見なされます。昇天教会、主の涙の教会、ゲッセマネの園、万国民の教会、主の祈りの教会、ユダヤ人の墓地などそこにあります（聖母マリアの墓もあります）。

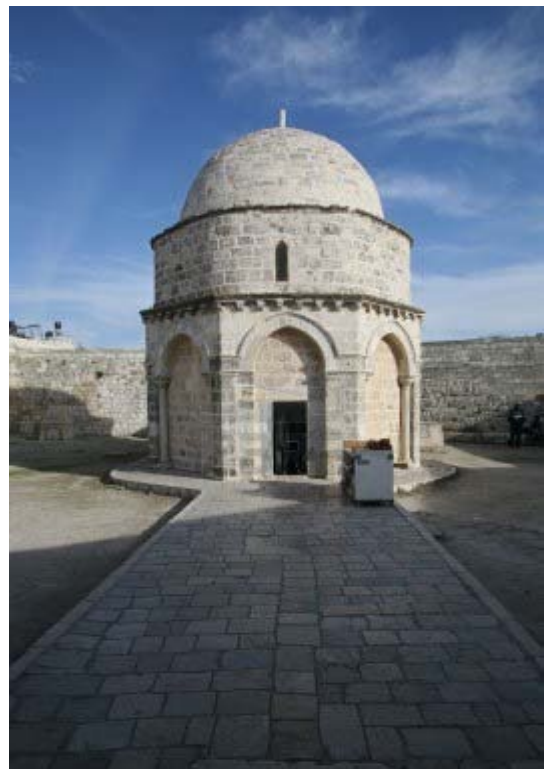
旧約聖書のゼカリヤ書（14:4）で、オリーブ山は最後の審判の日に神が立ち、死者がよみがえる場所とされているため、そこに墓地が作られるようになった。約 15 万の墓があるそうです。

### 昇天教会

イエスの昇天の場所は、直接聖書に引用されていませんが、使徒言行録による（1,12）、オリーブ山であったことと想定できます（使徒たちは、『オリーブ畑』と呼ばれる山からエルサレムに戻って来た。この山はエルサレムに近く、。。。。）

エレオナ大聖堂と呼ばれる最初の教会は 390 年に構築されました。エレオンというギリシャ語で「オリーブ」という意味です。この教会は何回も破壊され、再建されました。

十字軍に再び建築されましたが、イスラム教徒によって破壊されました。現在は八角形のチャペルしか残っていません。



サラディンは 1198 年に場所を購入し、モスクを構築しましたが、多くのキリスト教の巡礼者のため、このモスクは礼拝のために使用しませんでした。

チャペルの中に岩があります。そこには、右足の足跡を見ることができます。昇天した時にイエスが残した足跡だと巡礼者は信じています。

## 主の涙の教会

現在の「主の涙の教会」は、1930 年に、7 世紀のビザンチンの教会の廃墟の上に建てられています。

この教会は、ルカ福音書が書かれている (19:41-44) エピソードを記念します。エルサレムに近づき、都が見えた時、イエスはその都のために泣いたということです。祭壇の近くにある大きな窓からエルサレム市を眺めることができます。



## ゲッセマネの園

ゲッセマネ(「オリーブ油搾り場」という意味)はエルサレムのオリーブ山の北西麓にある地名で、新約聖書の福音書で知られています。オリーブの木の植えられた庭園風の場所だったためゲッセマネの園とも呼ばれている。

福音書ではイエスと弟子たちが最後の晩餐のあとに祈りを捧げ、またイエスがイスカリオテのユダに裏切られ捕えられた場所とされる。

## 万国民の教会

ゲッセマネの園のそばにカトリックの万国民の教会(苦悶の教会とも呼ばれる)があります。ここには古くから教会がありました。4 世紀に建てられたビザンチンの聖堂は 746 年の地震で破壊され、そして、12 世紀に十字軍によって建てられたものも 1345 年に放棄されました。この二つの教会の廃墟の上に現在の教会「万国民の教会」が建てられています。



現在の教会はいくつかの国によって提供されるお金で建てられましたので、「万国民の教会」と呼ばれる。この教会の中に、イエスが逮捕前に祈った岩が見られます。

## 主の祈りの教会

この教会はオリーブ山の頂上に位置しています。その場所はイエスによって度々行かれる場所でした。そして、そのところに、イエスは弟子たちに「主の祈り」を教えられました。80ヶ国以上の言語で書かれた「主の祈り」を見ることができます。



皇帝コンスタンティヌスの母ヘレナによって最初の教会が建てられました。614年に破壊されて、十字軍の戦士に再構築されました。現在の建物は19世紀に建てられました。

## 嘆きの壁

嘆きの壁の全長は約490mに及ぶが、一般には神殿の丘の西側外壁のうち地上に見えている幅約57mの部分のみを指す。この部分は広場に面しており、壁の前が礼拝の場所になっている。

神殿の丘にあたる場所は元は自然の高台であり、紀元前10世紀頃からすでにこの上に神殿が建てられていた。これが紀元前20年頃になってヘロデ大王によって大幅に拡張された。これが現

広場の前における壁の高さは約19m。地下に埋まっている部分も含めると32m。積み上げられた石は地上28段、地下17段の計45段。

地上7段目まではヘロデ大王の時代のものである。

地上8-11段目の4段は、ウマイヤ朝によって7世紀に追加された。

地上12-25段目の14段はオスマン帝国時代の1866年にイギリスの実業家モーゼス・モンテフィオーレ卿によって追加された。

地上26-28段目の3段はエルサレムのムフティーによって1967年に追加された。



在の神殿の丘であり、その西側の土留壁が現在の嘆きの壁である。

70年にユダヤ人による反乱（ユダヤ戦争）があり、ティトゥス率いるローマ軍により鎮圧される。この際、エルサレムは炎上し、神殿は破壊され西壁のみが残った。

バル・コクバの乱により、ユダヤ教徒のエルサレム立ち入りは禁止されていたが、ミラノ勅令により4世紀以降、1年に1日の立ち入りが許可されるようになる。

1967年の第三次中東戦争以降、ユダヤ教徒はエルサレムへの立ち入りが許されるようになる。約1900年間、ユダヤ教徒は自由に嘆きの壁に来て祈りを捧げることはできなかった。

イスラム教徒は672年にアル＝アクサー・モスクを、692年には岩のドームを神殿跡に建て、同地をマッカ、マディーナに次ぐイスラーム教の3番目の聖地とした。嘆きの壁をめぐるユダヤ教徒とイスラム教徒との論争は現在も続いている。

## 鶏鳴教会

シオンの丘の斜面に大祭司カヤパ邸の跡に建てられた鶏鳴教会があります。鶏鳴教会の名前はイエス キリストの予言のとおり、弟子のペトロが三度イエスを知らないと言った後に鶏が鳴いたという聖書の話に由来します。この鶏鳴教会が1931年に建てられました。



鶏鳴教会の中庭にある石の階段は19世紀に発掘され2000年前のものであると確認されています。イエス様が歩かれた道、石段は多少崩れたところがありますが、2000年という長い年月は感じられません。

鶏鳴教会の地下に大祭司カヤパ邸の地下牢の跡があり、そこはイエス キリストが十字架に架けられる前に留置されたと言われているところです。

## 最後の晩餐の部屋

最後の晩餐の部屋はイエス・キリストが使徒たちと一緒に最後の食事をした場所であり、その場所は、イエスの復活の後、使徒たちが集まる場所です。聖霊降臨の日、使徒たちが集まっていた場所でもあります。

最初建設された教会は何回も破壊され、何回も再建されました。そして、その後、十字軍は建設されたバシリカの中に最後の晩餐の部屋だけではなく、マリアの”dormicion”の礼拝堂も含まれていました。

十字軍の時代後、キリスト教徒は最後の晩餐の部屋だけを保持しました。1333年、この場所はフランシスコ会によって修道院になり1521年まで続きました。その後、イスラム教徒の家族に占領され、19世紀までキリスト教徒は立入ることができませんでした。



## ユダヤ教の五大祭

### ローシュ・ハッシュャーナー

ローシュ・ハッシュャーナー (Rosh Hashana) はユダヤ暦の新年祭。ティシュリーの月 (9月～10月) 1日にラビがシナゴークで角笛 (ショーファール、ラッパ) を吹く。ティシュリーの月 1日から 10日のヨム・キプールまでの 10日間は「畏れの日々」であり、敬虔なユダヤ教徒は悔い改めをしたり、和解をしたりする。

### ヨム・キプル

ヨム・キプル (Yom Kippur) または贖罪の日 (しょくざいのひ) はユダヤ教における最大の休日の1つである。ユダヤ教徒はこの日は飲食、入浴、化粧などの一切の労働を禁じられる。ユダヤ教徒は、ヨム・キプルのあいだは断食を行わなければならない。敬虔なユダヤ教徒は、唾液も飲み込むことなく吐き出している。

### 仮庵の祭り

仮庵の祭り (Sukkot) は、一般に太陽暦 10月頃に行われるユダヤ教の祭りである。仮庵の祭りは、過越祭 (ペサハ) と七週の祭り (シャブオット) とともにユダヤ教三大祭の一つ。ユダヤ人の祖先がエジプト脱出のとき荒野で天幕に住んだことを記念し、祭りの際は仮設の家 (仮庵) を建てて住んだことにちなむ。現代のイスラエルにおいてもスコットの期間中はいたるところで仮庵が設置されている。

### 過越

過越 (ペサハ, Pesaj) とは、聖書に記載されているユダヤ教の祭り。エジプトに住したヘブライ人たちがモーセに率いられてエジプトから逃亡した日、神の約束通り、死を運ぶ天使がユダヤ人の家のみを過ぎ越してエジプトの民だけに訪れたという歴史に由来する祭である。3月末から4月はじめの1週間、ユダヤの人びとは「出エジプト」のときの多忙を忘れないよう、イースト菌入りの食品を食べない。

### シャブオット

シャブオット (Shavuot) とは、ユダヤ教の祝祭で、過越、仮庵の祭とともに三巡礼祭の一つ。太陽暦で5月または6月に行われる。過越の第2日の49日 (7週間) 後に始まる約3日間の祭で、名は「週」を表すシャヴーアの特異な複数形に由来する。これから「七週の祭り」とも訳される。出エジプトの49日後にシナイ山で神が律法を与えたことを記念し、また春の収穫を感謝する農業祭としての意味がある。日常の仕事が禁じられる安息日であり、トーラーの学習、ルツ記の朗読などが行われる。食事には肉を使わず乳製品を食べる。



11月18日(月)

## ヴィア・ドロローサ 悲しみの道

ヴィア・ドロローサは、新約聖書の四つの福音書の記述やキリスト教の伝承などから想定されるイエスの最後の歩みのことです。いずれの福音書でも、イエスは十字架を背負って総督ピラトの官邸から刑場のあるゴルゴダの丘までの道のりを歩いたとされている。共観福音書では途中でキレネのシモンがイエスに代わって十字架を背負ったと書かれているが、ヨハネによる福音書ではイエス自身が最後まで背負ったことになっている。ヴィア・ドロローサという名称は、その道中に味わったイエスの苦難を偲んで名付けられており、ヴィア・クルシス（十字架の道）とも呼ばれている。



イエスの処刑からおよそ二千年後の現在の地理上では、ヴィア・ドロローサの始発点はエルサレム旧市街北東のイスラム教地区にあるライオン門付近、終着点は旧市街北西のキリスト教地区の聖墳墓教会内にあるイエスの墓に相当する。その間、始発点と終着点を含めた計十四箇所留と呼ばれる中継点が設けられており、第9留までが旧市街の入り組んだ路地の途中に、残りの五つが聖墳墓教会の内にある。

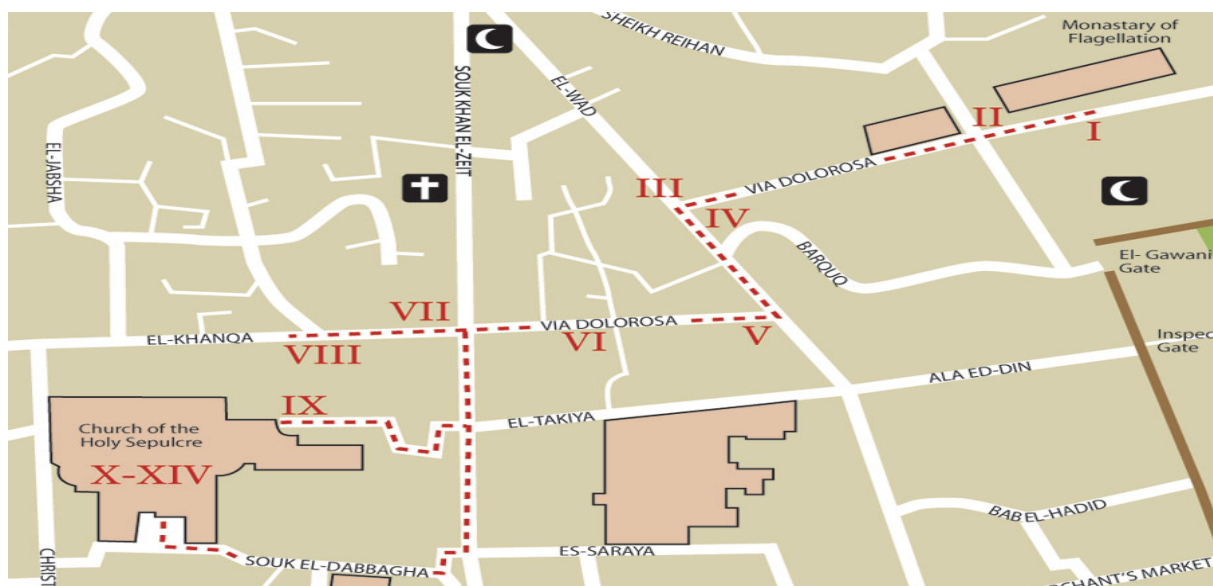
### 歴史

ヴィア・ドロローサに参加することは、今日ではエルサレム観光の主要目的のひとつになっている。一方、罪の贖いを求める巡礼者にとっては、ヴィア・ドロローサは依然として神聖な宗教儀式のひとつである。もっとも、紀元70年の第二神殿崩壊に伴う市街地の破壊と、その廃墟の上に新たに帝政ローマの殖民都市アエリア・カピトリーナが整備された経緯もあって、イエスの辿った道のりを史実通りに再現するのは不可能な状況である。しかし、参加者の多くはイエスと同じ道を歩いていると信じ、イエスの苦痛を推し量ることによって宗教的な体験を得ている。

帝政ローマ時代にはヴィア・ドロローサという概念はなく、今日のような留も設けられていなかったのだが、いつしか巡礼者によってゲッセマネの丘（あるいは総督官邸跡）からゴルゴダの丘までの進行が習慣的に行われるようになっていた。

14 世紀、フランシスコ会はローマ教皇からエルサレムの管理を命じられたのだが、彼らは十字軍によるエルサレム統治に象徴される力による聖地奪還ではなく、平和裏に聖地解放を目指すイデオロギーを掲げていた。その運動の一環として 1342 年からヴィア・ドロローサがはじめられ、その伝統が今日まで引き継がれている。

その間、幾度かのルート変更があったのだが、ルートが変わるごとにいくつかの留も変更を余儀なくされた。もっとも、留の多くは新約聖書の記述ではなく、後に誕生した伝承に基づいて選定されたものである。



- 第 1 留 ピラトに裁かれる
- 第 2 留 有罪に定められ、鞭で打たれる
- 第 3 留 最初に倒れた場所
- 第 4 留 悲しむ母マリアと出会う
- 第 5 留 キレネ人シモンがイエスを助ける
- 第 6 留 ベロニカがイエスの顔を拭く。

「ベロニカ (Veronica)」という名前の語源は「ヴェラ・アイコン (Vera Icon) (真実の像)。

- 第 7 留 二度目に倒れた場所
- 第 8 留 イエスがエルサレムの婦人たちに語りかける
- 第 9 留 三度目に倒れた場所
- 第 10 留 衣服を剥ぎ取られる
- 第 11 留 十字架が立てられる
- 第 12 留 イエスの死

第 12 留はゴルゴダの丘の左側に設置されており、そこでイエスが息を引き取ったことを物語っている。現在はギリシア正教会の管理下にあり、祭壇の足元には十字架が立てられたと

されるくぼみのある場所を厳密に示すために銀製の円形プレートが置かれている。また、イエスと共にふたりの犯罪人が十字架に掛けられたとされる場所（祭壇の両脇）には黒いプレートが置かれている。巡礼者の多くは長時間ここで足を止めるのだが、それはゴルゴタの丘の岩盤が露出しているくぼみの箇所を直に触れることができるからである。この岩盤には、イエスが死んだ際に発生した地震によってできたとされる亀裂が走っている。

#### 第 13 留 十字架の下の母マリア

十字架から降ろされるイエスの遺体を両手で受け止めたマリアの悲しみに焦点が当てられている。第 13 留がフランシスコ会によって正式に認定されたのは他の留に比べて遅かったようで、それ以前は、イエスの遺体が十字架から降ろされた後に「塗油の石 (Anointing Stone)」と呼ばれる石の上に横たえられて埋葬処置を施されたという出来事が第 13 留の主題であった。「塗油の石」は聖墳墓教会に入った正面にあるゴルゴタの丘のふもとに置かれている。

#### 第 14 留 イエスの墓

第 14 留はイエスの墓とされる場所にある。福音書によれば、イエスの遺体はアリマタヤのヨセフという人物が所有する墓地に埋葬されたという。

イエスの墓は現在、ロトンダ（円形建築物）の中央に納められている。石棺自体は切り石を組み合わせで作られた簡素なものなのだが、ビザンチン時代に墓の存在を際立たせるために大理石製のモニュメントが周囲を囲むようになった。ロトンダは 1808 年に起きた火災により損傷を受けたため、1810 年にロシア皇帝アレクサンドル 1 世の資金提供を受けてギリシア正教会によって修繕されたのだが、その際にロシア皇帝の王冠をかたどった天蓋が設けられている。



第 14 留はふたつの部屋に分けられている。ひとつは礼拝施設がある部屋で、もうひとつは石棺が置かれている部屋である。石棺には大理石で蓋がされている。この蓋には三つの突起があるのだが、この突起はイエスが死後三日目に復活したという出来事にちなんでいる。

もっとも、キリスト教徒のすべてが実際にイエスがこの場所に葬られたとは思っていない。プロテスタントによる主張では、イエスの時代に墓地があった場所は現在のダマスコ門の北側であるため、イエスの墓もその墓地にあったと考えられている。

## 第 15 留

「聖墳墓教会」という名称はイエスの死を悼んだカトリック教会による呼び名であり、正教会ではむしろイエスの復活に重点が置かれ「復活の教会」と呼ばれていたことに留意しなければならない。近年、カトリック教会の中でもイエスの復活に重点を置く傾向もあり、それを記念して第 15 留が加えられることもある。



### 福音書の記述に準じた十字架の道行き

近年のカトリックの伝承に拠ったいくつかの留を省いた十字架の道行きが実践されている。フランシスコ会によるローマのコロッセオでの十字架の道行きもそのひとつです。十四の留は、ゲッセマネの丘からはじまるなど、より福音書の記述に則した場面が選ばれている。

1. イエス、ゲッセマネの丘で祈る
2. イエス、イスカリオテのユダに裏切られる
3. イエス、最高法院により死刑の判決を受ける
4. ペトロ、三度イエスを否定する
5. ユダヤ人、イエスの十字架刑を要求する
6. イエス、ローマ兵によって紫の衣を着せられ、茨の冠を載せられる
7. イエス、十字架を背負う
8. キレネ人シモン、イエスの代わりに十字架を背負う
9. イエス、婦人たちと出遭う
10. イエス、十字架に掛けられる
11. イエス、犯罪人に語りかける
12. イエス、母マリアに語りかける
13. イエス、十字架上で息を引き取る
14. イエス、埋葬される

## 聖墳墓教会

聖墳墓教会とは、エルサレム旧市街（東エルサレム）にあるキリストの墓とされる場所に建つ教会。ゴルゴタの丘はこの場所にあったとされる。

### 歴史

コンスタンティヌス 1 世は 325 年頃に、キリストの磔刑の場所、ゴルゴタに教会を建てることを命じた。遺骸がアリマタヤのヨセフらによっていったん葬られ、3 日目に復活したという墓もその近くのはずであった。

エルサレムは 2 度のユダヤ戦争によって破壊され、135 年ごろにはローマ風の都市へと再開発されている。このため、ゴルゴタの位置は分からなくなってしまっていた。

伝えられているところによれば、コンスタンティヌスの母ヘレナが 326 年にエルサレムを訪れ、当時はヴィーナス神殿となっていたこの地で磔刑に使われた聖十字架と聖釘などの聖遺物を発見したとされ、ゴルゴタと比定した。神殿を取り壊して建てられたのが現在の聖墳墓教会である。教会の中の小さな聖堂がイエスの墓とされている。



この場所はエルサレムの旧城壁内にあるが、処刑場は城壁外にあったのではないかという疑念も出されている。聖墳墓教会とは別に、城壁外に「園の墓」があり、聖公会などプロテスタントの一部教派に支持されている。

聖墳墓教会はイエス・キリスト三つの異なった聖地を三つに連結した教会であった。これはバシリカやアトリウム、「Anastasis」と呼ばれるロタンダを含んだ。このロタンダのドームは 4 世紀の終わりに完成した。

教会はホスロー2世治下のサーサーン朝軍がエルサレムに侵攻し聖十字架を手に入れた614年に、火災によって損傷した。630年には、東ローマ皇帝ヘラクレイオスがエルサレムに入り、教会を再建するために聖十字架を返還した。イスラム教徒の支配下で教会は一定の自治下にあったが、966年のムスリムによる暴動の後、ドアや屋根が燃やされた。更にファーティマ朝のカリフ、ハーキムはキリスト教会の破壊を命じたため、1009年10月18日には一旦教会そのものがなくなってしまった。



ところが、厳しい状況の下、東ローマ皇帝コンスタンティノス9世モノマコスが1048年に小さな教会を再建した。土地は1099年1月15日の第1回十字軍の騎士によって奪還された。第1回十字軍は自らを武装した巡礼と見なしており、聖墳墓教会で巡礼者として祈るまで自分たちの遠征が完了したとは考えなかった。十字軍の指導者であるゴドフロワ・ド・ブイヨンはその生涯

で「王」という称号を使わないことを決め、彼自身を「聖墳墓教会の守護者（Advocatus Sancti Sepulchri）」と宣言した。12世紀の編年史家ギヨーム・ド・ティールは、12世紀半ば十字軍が教会をロマnesc様式で修築し鐘楼を加えたことを記している。

## 構造

教会に入ってすぐの場所は、イエス・キリストの身体が埋葬のために準備された場所であると信じられている石物である。中央のドームにイエスが埋葬され3日後に復活を遂げたとされる「石墓」が存在する。

現在この教会はカトリック教会、東方正教会、アルメニア使徒教会、コプト正教会、シリア正教会の複数教派による共同管理となっており、一日中それぞれ何らかの教派によるミサ・聖体礼儀などの公祈祷が行われている。



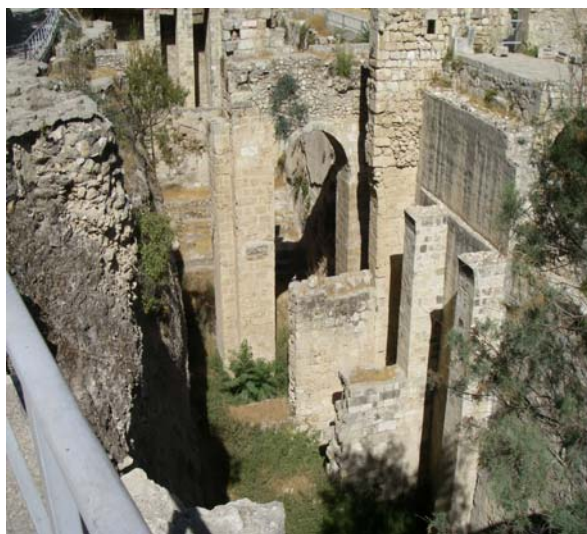
## ベテスダの池

池は紀元前 8 世紀に発掘された。この池にはソロモンの神殿でいけにえとして捧げる前に羊を洗うために使用された。その名は "恵みの家"、 "慈悲の家"を意味する。池には 5 の回廊がありました。そこで、水を介して治癒のために病人は並んでいた。ヨハネ福音書 5 章に描かれている「ベトザタ池で病人をいやす」とはこの場所に行われた。

### ベトザタの池で病人をいやす (ヨハネ 5:1~15)

その後、ユダヤ人の祭りがあったので、イエスはエルサレムに上られた。エルサレムには羊の門の傍らに、ヘブライ語で「ベトザタ」と呼ばれる池があり、そこには五つの回廊があった。この回廊には、病気の人、目の見えない人、足の不自由な人、体の麻痺した人などが、大勢横たわっていた。彼らは、水が動くのを待っていた。それは、主の使いがときどき池に降りて来て、水が動くことがあり、水が動いたとき、真っ先に水に入る者は、どんな病気にかかっているにも、いやされたからである。

さて、そこに三十八年も病気で苦しんでいる人がいた。イエスは、その人が横たわっているのを見、また、もう長い間病気であるのを知って、「良くなりたいか」と言われた。病人は答えた。「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに、ほかの人が先に降りて行くのです。」イエスは言われた。「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい。」すると、その人はすぐに良くなって、床を担いで歩きだした。その日は安息日であった。



そこで、ユダヤ人たちは病気をいやしていただいた人に言った。「今日は安息日だ。だから床を担ぐことは、律法で許されていない。」しかし、その人は、「わたしをいやしてくださった方が、『床を担いで歩きなさい』と言われたのです」と答えた。彼らは、「お前に『床を担いで歩きなさい』と言ったのはだれだ」と尋ねた。しかし、病気をいやしていただいた人は、それがだれであるか知らなかった。イエスは、群衆がそこにいる間に、立ち去られたからである。

その後、イエスは、神殿の境内でこの人に出会って言われた。「あなたは良くなったのだ。もう、罪を犯してはいけない。さもないと、もっと悪いことが起こるかもしれない。」この人は立ち去って、自分をいやしたのはイエスだと、ユダヤ人たちに知らせた。

## ベツレヘム

ベツレヘム（アラビア語: Bayt Lahm 、ベート・レヘム(口語)、「肉の家」の意、ヘブライ語: 現代音 Beyt Lehem、ベイト・レヘム、「パンの家」の意）は、パレスチナ自治区ベツレヘム県に位置する都市である。

### 概要

『旧約聖書』に記されたユダの町で、『新約聖書』の「マタイによる福音書」「ルカによる福音書」によるとイエス・キリストの誕生地。旧約時代、ダビデの家族がここに住み、ペリシテ人が駐留の際にはダビデの三勇士が危険を冒してこの井戸の水を汲んだ。聖書にはその他いくつかの箇所その名が記されている。

### 歴史

1099年、第1回十字軍によりベツレヘムは占領された。砦が築かれ、生誕教会の北側に新しい修道院が建設された。ギリシア正教の牧師が移り住んだ。この時まで、この地区に住む正式なキリスト教徒は、ギリシア正教徒であった。クリスマス日にボードゥアン1世がエルサレム王国の最初の王となり、この地で戴冠され、同年にキリスト教の司教



座も街に創設された。1187年、エジプトとシリアのスルタンであるサラディン率いるイスラム軍が、十字軍から街を奪還した。キリスト教徒は立ち退かざるをえず、逆に正教徒は帰還が許された。しかし、ヨーロッパからの巡礼者数がめっきり減って、巡礼者を対象とする商売が成り立たなくなった。

1995年以降、パレスチナ自治区に属する。人口は約3万で、現在、キリスト教徒は1%以下。イエス・キリスト生誕の地に建てられたといわれる「生誕教会」はローマ・カトリック教会、正教会、アルメニア使徒教会の共同管理下にある。



## 降誕教会

イエス・キリストが生まれたと伝承される洞穴を中心として、その上に立てられている聖堂を、ローマ・カトリック（フランシスコ会）、東方正教会、アルメニア使徒教会が区分所有する。2012年にユネスコにより世界遺産（危機遺産）に登録された。

コンスタンティヌス1世の時代に、イエス・キリストが生まれたとされていた洞穴の上に聖堂の建設が始められ、339年に完成した。この聖堂は6世紀の火災で失われ、モザイクの床がわずかに現存するのみである。再建はユスティニアヌス1世の時代に行われ、この6世紀の聖堂が基本的に現存する聖堂に受け継がれている。

## 世界遺産

降誕教会と関連する資産群は、2011年にユネスコに加盟したパレスチナにより、通常の世界遺産の登録のプロセスではなく、「緊急の保護を要する物件」として世界遺産（危機遺産）に申請されていた。しかしながら、そもそもパレスチナがユネスコに加盟すること自体にアメリカやイスラエルからの強い反発があったため、当初は登録を困難視する見方もあった。実際にユネスコの諮問機関であるICOMOSは、パレスチナによる申請は緊急の保護を要する類のものではないとして、登録の見送りを事前に勧告していた。



しかし、ロシアのサンクトペテルブルクで開催された第36回世界遺産委員会において、本物件の登録審議を行うことが認められ、秘密投票によって委員会を構成する21カ国のうち3分の2以上の賛成投票を得ることとなり、世界遺産への登録が認められた。またそれと同時にイスラエルによる反対動議も却下された。これはパレスチナ初の世界遺産登録であり、教会の主権、およびベツレ

ヘムの地がパレスチナのものであることをユネスコが認めた意味合いもあるため、イスラエルと緊密な関係を持つアメリカのユネスコ離れが加速するとの見方がある。なお、アメリカは国内法に基づき、パレスチナが加盟したユネスコへの分担金拠出を停止しているため、委員会では世界遺産基金の深刻な財源不足についても審議された。

## イエスの誕生 (ルカ 2:1~14)

そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。人々は皆、登録するためにおおの自分の町へ旅立った。ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。身ごもっていた、いなすけの MARIA と一緒に登録するためである。

ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、MARIA は月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。「いと高きところには栄光、神にあれ、／地には平和、御心に適う人にあれ。」



11月19日(火)

## エン・カレム

エン・カレムはエルサレムの旧市街から約 8 キロ離れています、現在、エルサレム市の一つの地区になっています。

町の名前は、ルカの福音書では記載されていませんが、「ユダヤの山岳地方」に言及されています。その町にエリザベトとゼカリヤは住んでいました。そして、マリアがエリザベトを訪問した場所です。また、洗礼者ヨハネが生まれた所でもあります。

### 洗礼者ヨハネ教会

5 世紀に、洗礼者ヨハネ教会は、洗礼者ヨハネが生まれた洞窟の上に建てられました。この教会は何回も破壊され、再建されました。17 世紀にキリスト教徒に返され、19 世紀末にフランシスコ会は洗礼者ヨハネ教会を再び建てました。教会の内部には、洗礼者ヨハネが生まれた洞窟があります。



### 洗礼者ヨハネの誕生 (ルカ 1:57~80)

さて、月が満ちて、エリサベトは男の子を産んだ。近所の人々や親類は、主がエリサベトを大いに慈しまれたと聞いて喜び合った。八日目に、その子に割礼を施すために来た人々は、父の名を取ってザカリアと名付けようとした。ところが、母は、「いいえ、名はヨハネとしなければなりません」と言った。しかし人々は、「あなたの親類には、そういう名の付いた人はだれもいない」と言い、父親に、「この子に何と名を付けたいか」と手振りでも尋ねた。父親は字を書く板を出させて、「この子の名はヨハネ」と書いたので、人々は皆驚いた。

すると、たちまちザカリアは口が開き、舌がほどけ、神を賛美し始めた。近所の人々は皆恐れを感じた。そして、このことすべてが、ユダヤの山里中で話題になった。聞いた人々は皆これを心に留め、「いったい、この子はどんな人になるのだろうか」と言った。この子には主の力が及んでいたのである。

父ザカリアは聖霊に満たされ、こう預言した。

「ほめたたえよ、イスラエルの神である主を。

主はその民を訪れて解放し、

我らのために救いの角を、僕ダビデの家から起こされた。

昔から聖なる預言者たちの口を通して語られたとおりに。

それは、我らの敵、すべて我らを憎む者の手からの救い。

主は我らの先祖を憐れみ、その聖なる契約を覚えていてくださる。

これは我らの父アブラハムに立てられた誓い。

こうして我らは、

敵の手から救われ、恐れなく主に仕える、

生涯、主の御前に清く正しく。

幼子よ、お前はいと高き方の預言者と呼ばれる。

主に先立って行き、その道を整え、

主の民に罪の赦しによる救いを知らせるからである。

これは我らの神の憐れみの心による。

この憐れみによって、高い所からあけぼのの光が我らを訪れ、

暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、

我らの歩みを平和の道に導く。」

幼子は身も心も健やかに育ち、イスラエルの人々の前に現れるまで荒れ野にいた。



## 訪問教会

最初の訪問教会は4世紀初頭に建てられて、その後、十字軍はこのビザンチン様式のチャペルの上にもう一つの教会を建てました。

十字軍の教会は破壊され、ビザンチン様式のチャペルも使われなくなりました。そして、16世紀にアラブの家族の私邸になり、1679年にフランシスコ会のものになりました。

糸杉に囲まれている、現在の訪問教会は20世紀の半ばに建てられました。中庭には50ヶ国以上の言語で書かれた「マグニフィカト」を見ることができ

ます。教会の内部には、エリザベトが幼児であったヨハネの命をヘロデの刺客から守るために、ヨハネを隠したといわれる岩があります。

### マリア、エリザベトを訪ねる (ルカ 1:39~56)

そのころ、マリアは出かけて、急いで山里に向かい、ユダの町に行った。そして、ザカリアの家に入ってエリサベトに挨拶した。マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子がおどった。エリサベトは聖霊に満たされて、声高らかに言った。「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。わたしの主のお母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょう。あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。」



そこで、マリアは言った。

「わたしの魂は主をあがめ、  
わたしの霊は救い主である神を喜びたえます。  
身分の低い、この主のはしためにも  
目を留めてくださったからです。

今から後、

いつの世の人もわたしを幸いな者と言うでしょう、  
力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。  
その御名は尊く、その憐れみは代々に限りなく、  
主を畏れる者に及びます。

主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、  
権力ある者をその座から引き降ろし、  
身分の低い者を高く上げ、飢えた人を良い物で満たし、  
富める者を空腹のまま追い返されます。

その僕イスラエルを受け入れて、  
憐れみをお忘れになりません、  
わたしたちの先祖におっしゃったとおり、  
アブラハムとその子孫に対してとこしえに。」

マリアは、三か月ほどエリサベトのところ滞りしてから、自分の家に帰った。

## エマオ

エマオ(Emmaus) は新約聖書のルカの福音書 (24 章 13~35 節) に登場する地名であり、「温かい井戸」という意味がある。

エルサレムから 11km 離れたところにあり、クレオパともう一人の弟子が旅をしていたときに、復活したイエス・キリストが現れた町である。

イエスは復活後にエマオに行く途中の道で、クレオパに近づいて、彼らと語りながら歩いた。そして、食事の招待を受けて、感謝してパンを裂いた時にそれが、イエスだと分かったが、その時イエスは見えなくなった。

現在、カロニエ、エル・クバーベ、アブ・ゴージュ、アムワスがエマオのあった場所として提唱されている。



### エマオで現れる (ルカ 24:13~35)

ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、この一切の出来事について話し合っていた。話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。

イエスは、「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」と言われた。二人は暗い顔をして立ち止まった。その一人のクレオパという人が答えた。「エルサレムに滞在しているながら、この数日そこで起こったことを、あなただけのご存じなかったのですか。」イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。それなのに、わたしたちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまったのです。わたしたちは、あの方こそ

イスラエルを解放してくださると望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。

ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、遺体を見つけずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。仲間の者が何人か墓へ行って見たのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」

そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。

一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。

そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、本当に主は復活して、シモンに現れたと言っていた。二人も、道で起こったことや、パンを裂いてくださったときにイエスだと分かった次第を話した。







# 典 礼 聖 歌

## 1 神に向かって

答唱 か み - に む か っ て よ ろ こ び う た い か ん しゃ の う た を さ さ げ よ う

- |             |           |       |             |         |          |
|-------------|-----------|-------|-------------|---------|----------|
| 1. 神の恵みによって | 民のつどいで賛美を | ささげ   | 神をおそれる人々の前で | わたしは誓いを | 果たす      |
| 2. 遠く地の果てまで | すべての者が神に  | たちかえり | 生きる喜びで      | かれらの心は  | いつも満たされる |

- |         |      |     |         |     |          |       |      |   |
|---------|------|-----|---------|-----|----------|-------|------|---|
| ・ 貧しい人は | かてに  | 恵まれ | 神を求める人は | 賛美を | ささげ      | る     |      |   |
| ・ 諸国の民は | 神の前に | ひざを | かがめ     | る   | わたしたちの国は | 神のもの  |      |   |
|         |      |     |         |     |          | 神は諸国を | 治められ | る |

## 2 主を仰ぎ見て

答唱 主を あおぎみて ひかりをうけよう 主

が おとずれ るひとのか おはかが やく

1. 主を たたえよう あげくれ賛美を くちにして  
2. 心をあわせて 主をあがめ ともにその名を たたえよう

1. 主は わたしたちの口の ほこり 苦しむ時の心の よろこび  
2. 主は わたしたちの祈りに心を 留め すべての恐れを遠ざけて くださる

## 3 神は残された不思議なわざの記念を

答唱 かみはのこされた ふしぎなわざのきねんを

1. 心を尽くして神に 感謝しよう 神をたたえる人のつどいなかで  
2. 神のわざは力と輝きに 満ち その正義はとこしえに及ぶ  
3. 神のわざにはまことと めぐみ すべての定めはゆるぎなく  
4. 神の名はとうとく おそるべきもの 神をおそれることは知恵のはじめ

1. 神のわざは いだい 人はそのわざを尋ね求めて喜ぶ  
2. 神は恵み豊かで あわれみ深く とこしえに契約を心に留めてくださる  
3. 世々とこしえに すえられ 正しさとまことに基づいている  
4. これを行う者はすべてを わきまえる 神への賛美は世々とこしえに

## 4 このパンを食べ

答唱 このパンをたべこのさかずきをのみわたしは主の死をつげしらせる

- |                      |       |        |
|----------------------|-------|--------|
| 1. 神が与えてくださったすべての恵みに | どのように | こたえようか |
| 2. 神を敬う人の死は          | 神の前に  | とうとい   |
| 3. わたしは感謝のいけにえをささげ   | 神の名を  | 呼び求めよう |

- |                   |          |       |   |
|-------------------|----------|-------|---|
| 1. わたしは救いの杯をささげ、  | 神の名を     | 呼び求めよ | う |
| 2. 神よ わたしはあなたに仕え、 | あなたはわたしを | 救われ   | る |
| 3. すべての民の前に進み出て、  | 神に立てた誓いを | 果たそ   | う |

## 5 心を尽くして神をたたえ

答唱 こころをつくしてかみをたたえすべてのめぐみをこころにとめよう

- |                |     |                |       |
|----------------|-----|----------------|-------|
| 1. 神はわたしの罪を    | ゆるし | 痛みを            | いやされる |
| 2. 神は正義のわざを    | 行い  | しいたげられている人を    | 守られる  |
| 3. 神は恵み豊かにあわれみ | 深く  | 怒るにおそくいつくしみ    | 深い    |
| 4. 天が地より高い     | ように | いつくしみは神をおそれる人の | 上にある  |

- |                 |     |                |        |
|-----------------|-----|----------------|--------|
| 1. わたしのいのちを危機から | 救い  | いつくしみ深く        | 祝福される  |
| 2. 神はその道をモーセに   | 示し  | そのわざをイスラエルの子らに | 告げられた  |
| 3. 父が子どもをいつくしむ  | ように | 神の愛は神をおそれる人の   | 上にある   |
| 4. 東と西が果てしなく遠い  | ように | 神はわたしたちを罪から    | 引き離される |

## 6 しあわせなかたマリア

しあわせなかたマリア めぐみあふれるマリア

あなたとともにかみはおられしはくはおんなのあなたとあ

あなたの子 イスーにけだかいマリアかみのははつ

みふかいわたしたちのために いまも死をむかえるときにもか

み - にいのっ てく ださい ア - - ム

## 7 天は神の栄光を語り

♩ = 88 くらい

答唱 て ん は か み の え い こう を か た り (か た り) お

お ぞ ら は み 手 の わ ざ を 告 げ る

- |                |    |            |       |
|----------------|----|------------|-------|
| 1. 天は神の栄光を     | 語り | 大空は み手のわざを | 告げる   |
| 2. ことばでもなく 話でも | なく | その声も       | 聞えないが |

- |               |              |             |       |
|---------------|--------------|-------------|-------|
| 1. 日は日に ことばを  | 語り継ぎ         | 夜は夜に知識を     | 伝える   |
| 2. その響きは地をおおい | その知らせは世界に 及ぶ | 神は天に 太陽の幕屋を | すえられた |

## 8 神のみ旨を行なうことは

答唱 か み の み む ね を お こ な う こ と は わ た し の こ こ ろ の よ ろ こ び

- |                |        |                          |
|----------------|--------|--------------------------|
| 1. 神よ あわれみと祝福を | わたしたちに | あなたの顔の光をわたしたちの上に照らしてください |
| 2. 諸国の民は あなたを  | たたえ    | すべての民は あなたを 賛美せよ         |
| 3. 地は豊かに       | 実り     | 神は わたしたちを 祝福された          |

- |                    |     |                        |       |
|--------------------|-----|------------------------|-------|
| 1. あなたのわざが世界に      | 知られ | 救いが すべての国に知られる         | ように   |
| 2. すべての国は喜び        | 歌え  | あなたは民を正しくさばき諸国の民を 導かれる |       |
| 3. 地の果てに至るまで 神をおそれ | 敬え  | 神は わたしたちを              | 祝福された |

## 9 わたしたちは神の民

答唱 わたしたちはかみのたみ そのまきばのむれ

1. わたしの民を	集めよ	いけにえをささげて契約を結ぶ	民を
2. わたしの民よ	聞け	わたしはおまえに	語る
3. 苦悩の日にわたしを	呼び求めよ	わたしはおまえを救い	おまえはわたしを
		わたしを	たたえる

1. 天は神の正義を	告げる	神はすべてを	さばかれる
2. イスラエルよ おまえを	戒めよう	わたしは神	おまえのかみ
3. 感謝をささげる人は神を	あがめる	正しい道を歩む人を	救われる
		神は確かに	

## 10 神の注がれる目は

答唱 かみのそそがれるめはかみをおそれるものにか

みのあいなきぼうをおくものうえに

## 11 神のはからいは

答唱 かみのはからいはかぎりなくしょうがいわたしはそのなかに生きる

1. 主よ あなたは代々に 世界が造られる前から  
わたってわたしたちのすま い 永遠にあなたは か み  
2. あなたは人に 人は ちりに も どされ る  
「もとにもどれ」と おおせにな リ

1. 朝ごとに あなたの いくつしみを そそ ぎ 日々わたしたちに 喜びの歌を うたわしてください  
2. あなたが いのちを た たれると 人は眠りに おちい る

## 12 遠く地の果てまで

詩編 96

答唱 と おく地の果てまで すべてのも のが かみのすくいをみた

1. 新しい歌を 神に うたえ 世界よ 神に向かって 喜び うたえ  
2. 天地は喜びに あふれ 海とそこに満ちるものは叫びを あげる  
3. 聖なるものが現れる時 神を おがめ 世界よ 神を おそれ よ

1. 神の名を たたえて 歌 い 日ごとに救いを 告げ知らせよ  
2. 野とそこにあるものは どよめき 森の木々は声をあげて 神の前で うた う  
3. 神は来られる 世界をさばきに 来られる 正義とまことをもって すべてのの民を さばかれ る

### 13 しあわせな人

答唱しあわせなひと - かみをおそれ主

のみちを - あゆむ - もの -

1. 汗にひたして                      受けるかて                      恵みと平和に                      満たされる  
 2. オリーブの                      若木のように                      に                      子どもたちは食卓を                      かこむ

1. 実り豊かなぶどうの木のように                      に                      妻は家庭を                      うるおす  
 2. 神の祝福がシオンから臨み                      エルサレムの栄えと数多くの子孫の                      むれを見る  
     いのちのある限り                      リア

### 14 ひとつになろう

♩ = 60 くらい

ひとつになろうキリストのうちにみなひ

1.                      とつになろう                      2.                      とつになろう



## 15 行け 地の果てまで

**Alla Marcia**

ゆ け ゆ け 地 の 果 て ま で す く い の お と ず  
 れ を つ げ る た め に げ る た め に

## 16 主はわれらの牧者

答唱 主 は わ れ ら の ぼ く - し わ た し は と ぼ し い こ と が な い

- |                  |        |            |      |
|------------------|--------|------------|------|
| 1. 神は わたしを緑のまきばに | 伏さ せ   | いこいの水辺に    | 伴われる |
| 2. たとえ死の陰の谷を     | 歩んでも   | わたしは わざわいを | 恐れない |
| 3. あなたは はむかう者の   | 前 で    | わたしのために会食を | ととのえ |
| 4. 神の恵みと         | いつくしみに | 生涯         | 伴わ れ |

神は わたしを	生き返らせ	いつくしみによって正しい道に	み ち び か れ る
あなたが わたしとともに	おら れ	そのむちとつえはわたしを	ま も っ て
わたしの頭に油を	注 ぎ	わたしの杯を	満 た さ れ る
わたしは	とこしえに	神の家に	生 き

# 朝の祈り



新しい朝を迎えさせてくださった神よ、  
きょう一日わたしたちを照らし、導いてください。  
自分のしたいことばかりでなく、  
あなたの望まれることを行い、  
まわりの人たちのことを考えて  
生きる喜びを見いださせてください。  
アーメン。

- 聖歌。。。 (13日) 「神を注がれる目は」。。。 10番  
(14日) 「神のみ旨を行う」。。。 8番  
(15日) 「天は神の栄光を語り」。。。 7番  
(16日) 「しあわせなかたマリア」。。。 6番  
(17日) 「遠く地の果てまで」。。。 12番  
(18日) 「ひとつになろう」。。。 14番  
(19日) 「主はわれらの牧者」。。。 16番



## 巡礼の祈り

神よ、巡礼に出かけている私たちを  
あなたの祝福で満たしてください。  
あなたの顔の輝きは旅人の喜びとなりますように  
いつも私たちと共にいてください。  
神よ、あなたは旧約時代のトビアに  
旅のために天使をお遣わしになったように、  
私たちにも天使を遣わして  
困難、道の迷いなどの事故からお守りください。  
私たちの主イエス・キリストによって。  
アーメン。



## ユスト高山右近の列福を求める祈り

すべての人の救いを望まれる神よ、ユスト高山右近は、「全世界に行って、福音をのべ伝えなさい」というキリストのことばにこたえ、苦しむ人を支え、困難のうちにある人を助け、あなたへの愛をあかししました。また、世の権力に屈することなく福音に忠実に従う道を選び、すべての地位と名誉を捨て、幾多の困難をすすんで受け入れ、ついには異国へ追放されました。このように、あなたはユスト高山右近をとおして、すべての人に仕える者の姿を示してくださいました。

父である神よ、どうか私たちの祈りを聞き入れ、福音を力強くあかししたこの神のしもべを福者の列に加えてください。

わたしたちの主イエス・キリストによって。 アーメン

### (各自の意向を沈黙のうちに祈る)

父である神よ、現代に生きるわたしたちが、あなたの忠実なしもべユスト高山右近にならって、この世の力や誘惑に惑わされることなく生き、み名を知らない人びとに福音をあかしできるよう、ゆるぎない信仰と勇気で満たしてください。わたしたちの主イエス・キリストによって。 アーメン



ヨーロッパ・カトリック聖地巡礼センター